■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

SUPPORT

ハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ハンディカムホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
ハンディカムの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

電話で問い合わせる（おかけ間違いにご注意ください）

TEL

テクニカルインフォメーションセンター
【電話番号】 0564-62-4979
＜電話受付時間＞
月～金曜日　午前9時～午後8時
土、日曜日、祝日　午前9時～午後5時
お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

REPAIR

指定宅配便での修理品のお引取りから修理後の製品のお届けまでを一括して行います。
テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

■ カスタマー登録のご案内

ハンディカム カスタマー 登録

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

> 登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
> 詳しくは下記のURLをご覧ください。
> http://www.sony.co.jp/cam/contact/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35　http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

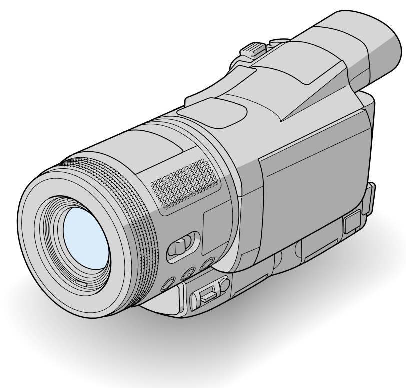
2631458020

SONY

2-631-458-**02** (1)

デジタルHDビデオカメラレコーダー
HANDYCAM
取扱説明書

HDR-HC1



HDV　Mini DV Digital Video Cassette　MEMORY STICK™　InfoLITHIUM™ M SERIES
HDV 1080i

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

→ 108 ～ 111ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

⬇

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラや充電器などの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにテクニカルインフォメーションセンターへご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら 煙が出たら	➡	❶ **電源を切る** ❷ **電池をはずす** ❸ **テクニカルインフォメーションセンターに連絡する**

裏表紙に**テクニカルインフォメーションセンターの連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**

❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**

❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**

❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


プラグをコンセントから抜く


指示

電池について

「安全のために」の文中の「電池」とは、バッテリーパックも含みます。

使用前に必ずお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

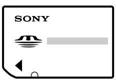
本機で使えるカセットについて

- Mini DVマーク付きミニDVカセットが使えます。カセットメモリーには非対応です（詳しくは96ページ）。

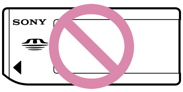
本機で使える"メモリースティック"について

"メモリースティック"のサイズには2種類あります。本機では、MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUOマーク付きの"メモリースティック　デュオ"が使えます（詳しくは98ページ）。

"メモリースティック　デュオ"（本機で使用するサイズ）



"メモリースティック"（本機では使用できません）

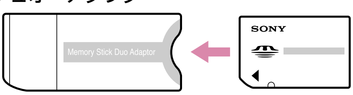


- "メモリースティック　デュオ"以外のメモリーカードは使用できません。
- "メモリースティック　PRO"、"メモリースティック　PRO　デュオ"は"メモリースティック　PRO"対応機器でのみ使用可能です。

"メモリースティック　デュオ"を"メモリースティック"対応機器で使用する場合

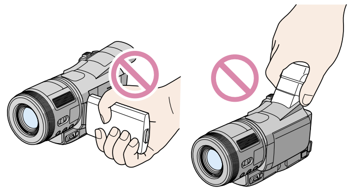
必ず"メモリースティック　デュオ"を付属のメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。

メモリースティック デュオ　アダプター

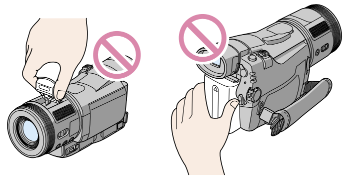


故障や破損の原因となるため、特にご注意ください。

- 次の部分をつかんで持たないでください。



液晶画面　　ファインダー



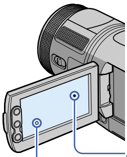
フラッシュ　　バッテリー

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「取り扱い上のご注意とお手入れ」もご覧ください（102ページ）。
- D端子コンポーネントビデオケーブル、USBケーブル、i.LINKケーブルなどで接続する場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

メニュー項目、液晶画面、ファインダーおよびレンズについてのご注意

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その撮影/再生条件では使えません（同時に選べません）。
- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

次のページへつづく ➡



- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

録画/録音に際してのご注意

- 事前にためし撮りをして、正常な録画/録音を確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画/録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

他機での再生に際してのご注意

HDV規格で記録したテープは、HDV規格に対応していない機器で再生することができません（青一色の画面になります）。

他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

本書について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。
- 記録メディアやアクセサリーの仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。

MTF=Modulation Transfer Functionの略。
コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

目次

文中のマークについて
HDV1080i HDV規格だけで使える機能です。
DV DV規格だけで使える機能です。

次のページへつづく ➡

メニューで設定を変更する

ダビングや編集をする

HDV規格で撮ってみよう！

HDV規格で撮る醍醐味

とってもきれい

HDV規格では従来のテレビに比べて有効走査線数は約２倍以上、全体の画素数は約４倍以上となり、画質が飛躍的に向上しました。
本機はHDV規格に対応し、高精細で臨場感あふれるハイビジョン映像を撮影することができます。

HDV規格とは？

HDV規格とは、現在普及しているDV規格のカセットテープを使ってハイビジョンの映像を撮影・再生するための新しい映像規格です。

- **本機では、「HDV規格」の中で、有効走査線数1080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。**記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。



有効走査線数
1080本

- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080i方式のことをHDVと書きます。

なぜHDV規格で撮るの？

映像の世界がデジタル方式へと移行していくなかで、大切な場面をHDV規格で撮影しておくことで後々まで高画質な映像をお楽しみいただくことができます。
従来のワイドテレビや4:3テレビでも本機のダウンコンバート機能によりHDV規格の画像をSD（標準）画質で再生できるので、ハイビジョンテレビをお持ちでないかたも将来に備えてHDV規格で撮影することをおすすめします。

- ダウンコンバートとは、HDV1080i方式非対応のテレビやビデオ機器と本機をつないだときに、HDV規格の映像をDV規格に変換して再生、編集を可能にする機能のことです。画質はSD（標準）画質になります。

HDV規格で撮影した画像を楽しもう！



ハイビジョンテレビで見る（32ページ）

HDV規格で撮影した画像を高精細で鮮やかなHD（ハイビジョン）画質で再生できます。

• HDV1080i方式（i.LINK）対応のテレビについては、97ページをご覧ください。

ワイドテレビ/4：3テレビで見る（32ページ）

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、従来のテレビで見ることができます。画質はSD（標準）になります。

他のビデオ機器にダビングする（60ページ）

HDV1080i方式対応機器とつなぐ

i.LINKケーブル（別売り）でつないでHD（ハイビジョン）画質でダビングができます。

HDV1080i方式以外の機器とつなぐ

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、SD（標準）画質でダビングできます。

パソコンにつなぐ（69ページ）

"メモリースティック　デュオ"の静止画をパソコンに取り込む

69ページをご覧ください。

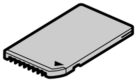
テープの動画をパソコンに取り込む

パソコンに取り込む規格（HDVまたはDV）によって、パソコンに必要な装備が異なります。詳しくは、72ページと以下のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

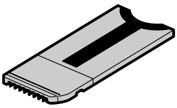
準備1：付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確認してください。万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数。

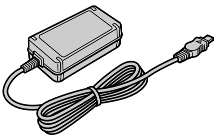
“メモリースティック　デュオ”16MB（1）（18、98ページ）



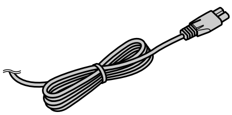
メモリースティック　デュオ　アダプター（1）（99ページ）



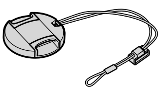
ACアダプター（1）（11ページ）



電源コード（1）（11ページ）

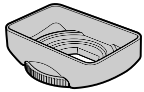


レンズキャップ（1）



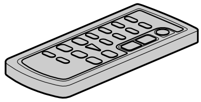
本機にあらかじめ取り付けられています。

レンズフード（1）（114ページ）



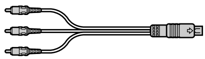
晴れた日の屋外など強い光源のある場所で取り付けます。

ワイヤレスリモコン（1）（30ページ）



ボタン型リチウム電池があらかじめ取り付けられています。

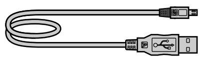
AV接続ケーブル（1）（32、60ページ）



D端子コンポーネントビデオケーブル（1）（32、60ページ）



USBケーブル（1）（69ページ）



リチャージャブルバッテリーパック NP-FM50（1）（11、100ページ）

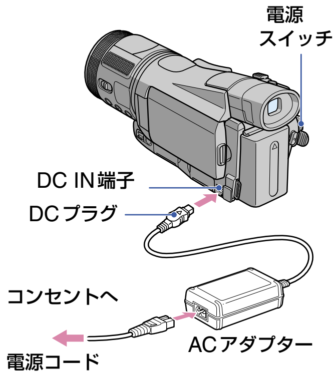
取扱説明書 ＜本書＞（1）

保証書（1）

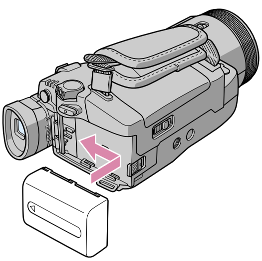
準備2：バッテリーを充電する

専用の“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）（100ページ）を本機に取り付けて充電します。

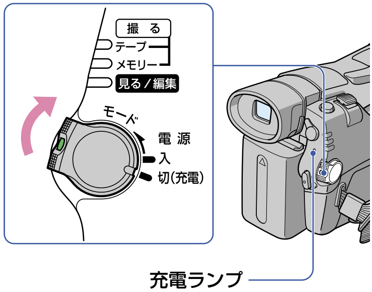
- バッテリー NP-FM30は本機では使用できません（型名はバッテリーの裏をご覧ください）。無理に取り付けると、バッテリーが劣化したり外せなくなるなど本機の故障の原因になります。



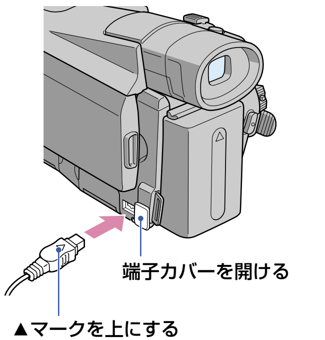
1 **バッテリーを「カチッ」というまで矢印の方向にずらして、取り付ける。**



2 **電源スイッチをずらして、「切（充電）」（お買い上げ時の設定）にする。**



3 **DCプラグの▲マークを上にして、ACアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。**



4 **電源コードでACアダプターとコンセントをつなぐ。**

充電ランプが点灯し、充電が始まります。

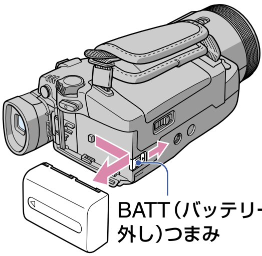
次のページへつづく ➡

5 **充電ランプが消え、充電が終わったら（満充電）、AC アダプターを本機のDC IN端子から抜く。**

DC プラグと本機を持って抜いてください。

バッテリーを取り外すには

電源スイッチを「切（充電）」にする。BATT（バッテリー取り外し）つまみをずらしながら、バッテリーを取り外す。



保管するときは

長い間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管する（100ページ）。

コンセントからの電源で使うには

充電するときと同じ接続で使えます。
バッテリーを取り付けたままでもバッテリーは消耗しません。

充電時間

使い切った状態からのおよその時間（分）。

バッテリー型名	満充電時間
NP-FM50（付属）	150
NP-QM71D	260
NP-QM91D	360

撮影可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV 規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時 *	実撮影時 *
NP-FM50（付属）	80 85 80	40 45 40
NP-QM71D	200 215 205	110 115 110
NP-QM91D	300 325 305	165 175 165

DV 規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時 *	実撮影時 *
NP-FM50（付属）	90 100 90	50 55 50
NP-QM71D	225 245 225	120 135 120
NP-QM91D	340 375 345	185 205 190

* 上段：液晶画面バックライトが「入」のとき
中段：液晶画面バックライトが「切」のとき
下段：液晶画面を閉じてファインダー使用時

- 実撮影時とは、録画スタンバイ、電源スイッチの切り換え、ズームなどを繰り返したときの時間です。

再生可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV 規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生 *	液晶画面を閉じて再生
NP-FM50（付属）	100	110
NP-QM71D	240	275
NP-QM91D	365	420

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-FM50（付属）	125	145
NP-QM71D	305	355
NP-QM91D	465	535

* 液晶画面バックライトが「入」のとき

バッテリーについて

- バッテリーの交換は、電源スイッチを「切（充電）」にしてから行ってください。
- 次のとき、充電中の充電ランプが点滅したり、バッテリーインフォ（25ページ）が正しく表示されないことがあります。
  – バッテリーを正しく取り付けていないとき
  – バッテリーが故障しているとき
  – バッテリーが劣化しているとき（バッテリーインフォ表示のみ）
- 電源コードをコンセントから抜いても、ACアダプターが本機のDC IN端子につながれている限り、バッテリーからは電源供給されません。
- 同梱または別売りのソニー製“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）をお使いください。バッテリーNP-FM30は本機では使用できません。
- ビデオライト（別売り）を取り付けたときは、バッテリーNP-QM71DまたはNP-QM91Dのご使用をおすすめします。

充電/撮影/再生時間について

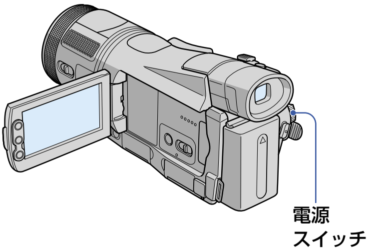
- 25℃（10℃～30℃が推奨）で使用したときの時間です。
- 低温の場所で使うと、撮影/再生時間はそれぞれ短くなります。
- 使用状態によって、撮影/再生可能時間が短くなります。

ACアダプターについて

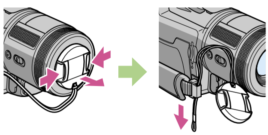
- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

準備3：電源を入れて正しく持つ

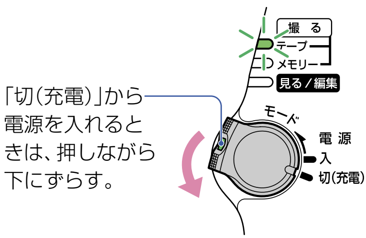
撮影や再生時は、電源スイッチを操作して、ランプを点灯させせます。
初めて電源を入れると自動的に[日時あわせ]画面になります（17ページ）。



1 レンズキャップをはずし、ひもを下に引っ張り、グリップに固定する。



2 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、使用するモードのランプを点灯させる。



点灯させるランプ

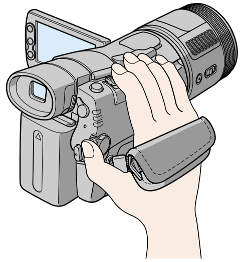
「撮る－テープ」：テープに撮影時

「撮る－メモリー」：“メモリースティック デュオ”に撮影時

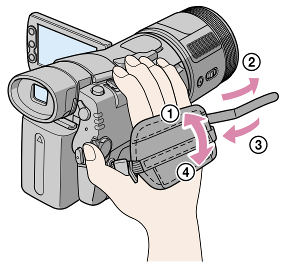
「見る／編集」：再生や編集時

- 電源を切った状態から、「撮る－テープ」、または「撮る－メモリー」ランプを点灯させると、液晶画面に現在の日時が約5秒間表示されます。

3 本機を正しく構える。



4 ベルトをしっかりと締める。



電源を切るには

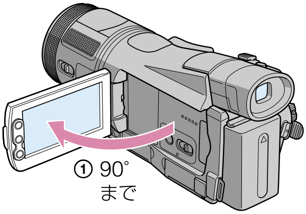
電源スイッチを上にずらして、「切（充電）」にする。

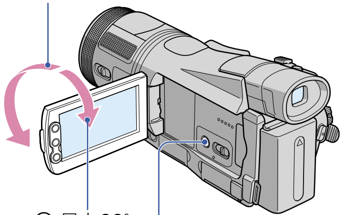
- お買い上げ時は、電源を入れて何もしない状態が約5分続くと、バッテリー消耗防止のため、自動的に電源が切れます（[自動電源オフ]、56ページ）。

準備4：液晶画面とファインダーを調節する

液晶画面を見やすく調節する

液晶画面を90°まで開き（①）、見やすい角度に調節する（②）。





- 液晶画面を開閉するときや、角度を調節するときに、液晶画面の横にあるボタンを誤って押さないよう、ご注意ください。
- 液晶画面を①の状態からレンズ側に180° 回転させると、外側に向けて本体に収められます。再生時に便利です。
- 液晶画面を閉じるときは、液晶画面を①の状態にしてから、本体に向けて閉じます。

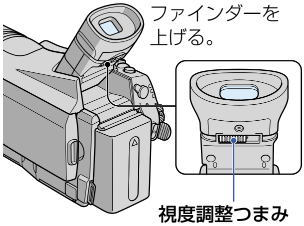
液晶画面バックライトを消してバッテリーを長持ちさせるには

画面表示/バッテリーインフォボタンを [バックライトOFF] が表示されるまで数秒間押したままにする。明るい場所で使うときや、バッテリーを長持ちさせるときに効果的です。
録画される画像には影響ありません。
解除するにはもう1度 [バックライトOFF] が消えるまで押したままにする。

- 液晶画面の明るさは、[パネル明るさ]（53ページ）で調節できます。

ファインダーを見やすく調節する

液晶画面を閉じて、ファインダーで画像を見ることもできます。液晶画面使用時より、バッテリーは長持ちします。



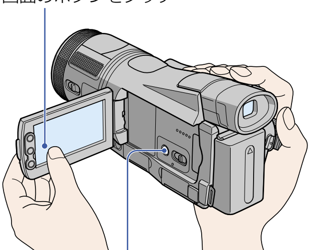
- ファインダーのバックライトの明るさは、メニューの[パネル・VF設定] – [VFバックライト]で設定できます（54ページ）。

準備5：タッチパネルを操作する

撮影した画像を再生するときや(21ページ)、メニューで設定を変更するとき(36ページ)は、液晶画面をタッチして操作します。

液晶画面の背面を手で支えながら画面上のボタンを指で軽くタッチする(触れる)。

画面のボタンをタッチ



画面表示/バッテリーインフォボタン

- 液晶画面の横にあるボタンを押すときも同様に操作します。
- 液晶画面をタッチして操作するときに、液晶画面の横にあるボタンを誤って押さないようにご注意ください。

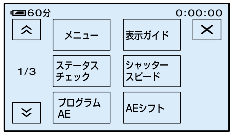
画面表示を消したいときは

画面表示/バッテリーインフォボタンを押すたびに、タイムコードなどの情報が、[表示] ↔ [非表示]と切り替わる。

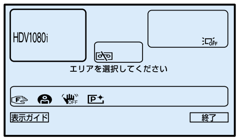
画面表示を確認する(表示ガイド)

画面に出ている表示の意味を簡単に確認できます。

1 P.メニューをタッチする。

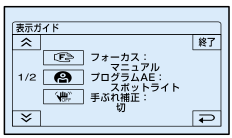


2 [表示ガイド]をタッチする。



設定されている内容によって、表示項目が異なります。

3 確認したい表示が入っているエリアをタッチする。



エリアにある表示の意味が一覧で表示されます。確認したい表示が見つからないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させてください。
[↩]をタッチするとエリア選択画面に戻ります。

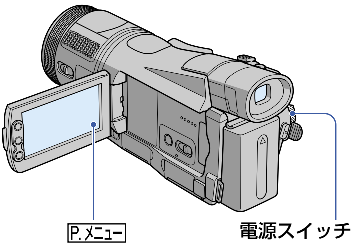
終了するには

[終了]をタッチする。

準備6：時計を合わせる

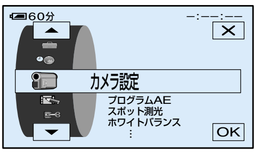
初めて電源を入れたときは日付、時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れたり、電源スイッチを切り換えるたびに[日時あわせ]画面が表示されます。

- **3か月**近く使わないでおくと内蔵の充電式電池が放電して、日付、時刻の設定が解除されます。充電式電池を充電してから設定し直してください（104ページ）。

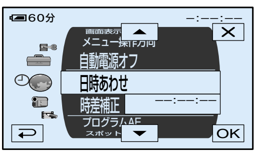


初めて時計を合わせるときは、手順**4**から操作してください。

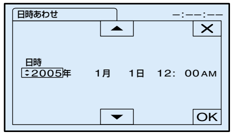
1 P.メニュー→[メニュー]をタッチする。



2 ▲/▼で時間設定メニューを選び、OKをタッチする。

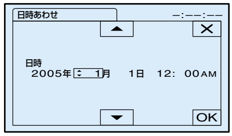


3 ▲/▼で[日時あわせ]を選び、OKをタッチする。



4 ▲/▼で[年]を合わせ、OKをタッチする。

2079年まで設定できます。



5 同様に、[月]、[日]、時、分を合わせ、OKをタッチする。

時計が動き始めます。
真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

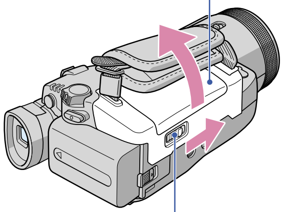
準備7：カセットや“メモリースティック　デュオ”を入れる

カセットを入れる

Mini DV マーク付きミニDVカセットのみ使えます（96ページ）。

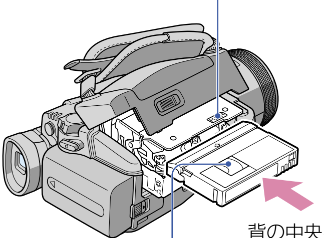
- ［ 録画モード］によって、録画可能時間は異なります（52ページ）。DV

1 **開く/カセット取出し つまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。**



カセット入れが自動的に出て開きます。

2 **テープ窓を外側にして、カセットを入れ、PUSHマークを押す。**



カセット入れが自動的に収納されます。無理に押し込むと、故障の原因になります。

3 **カセットカバーを手で閉める。**

カセットを取り出すには

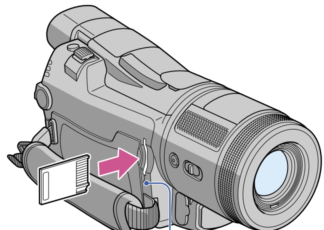
手順**1**と同じ操作でカセットカバーを開けて、カセットを取り出す。

“メモリースティック　デュオ”を入れる

MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUO マーク付き“メモリースティック　デュオ”のみ使えます（98ページ）。

- 画質や画像サイズによって撮影可能枚数は異なります。撮影枚数については45ページをご覧ください。

“メモリースティック　デュオ”を正しい向きに、「カチッ」というまで押し込む。

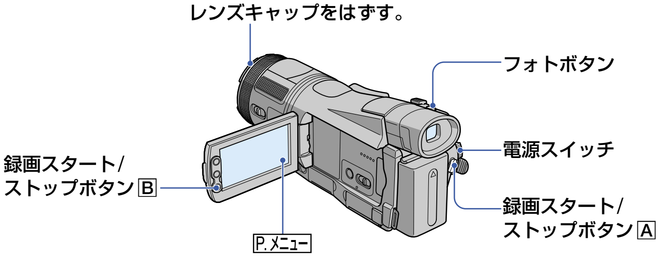


- 誤った向きで無理に入れると、“メモリースティック　デュオ”や“メモリースティック　デュオ”スロット、画像データが破損することがあります。

“メモリースティック　デュオ”を取り出すには

“メモリースティック　デュオ”を軽く1回押して取り出す。

- アクセスランプの点灯中や点滅中は、データの読み込みや書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック　デュオ”やバッテリーを取り外したりしないでください。画像データが壊れることがあります。
- 出し入れ時には“メモリースティック　デュオ”の飛び出しにご注意ください。

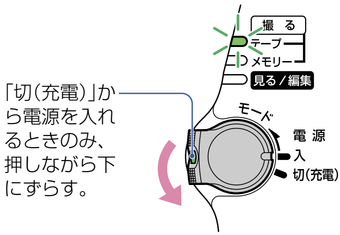


1 **電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、使用するモードのランプを点灯させ、記録するメディアを選ぶ。**

テープに動画を撮るとき：
「撮る－テープ」ランプを点灯

“メモリースティック　デュオ”に静止画を撮るとき：
「撮る－メモリー」ランプを点灯*

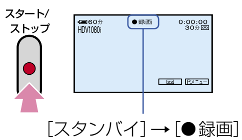
* お買い上げ時の設定では、画像の比率は4:3になります。



2 **撮影を始める。**

動画のとき

録画スタート/ストップボタン A（または B）を押す。

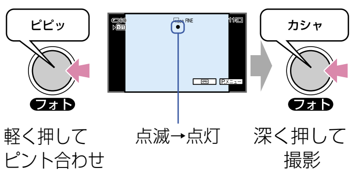


動画撮影を止めるには、録画スタート/ストップボタンをもう１度押す。

- お買い上げ時にはHDV規格で撮影するように設定されています（52ページ）。

静止画のとき

フォトボタンを軽く押してピントを合わせ、深く押す。



「カシャ」と鳴り、▮▮▮▮が消えると記録される。

- テープに動画を撮影中や、スタンバイ中にフォトボタンを深く押すと、“メモリースティック　デュオ”に静止画を撮影できます。静止画の画像サイズは、HDV規格で撮影中は1440×810で、DV規格で撮影中は1080×810（4：3）、または1440×810（16：9）で記録されます。

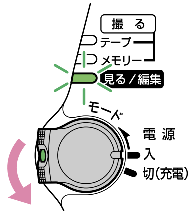
“メモリースティック　デュオ”に記録した画像をすぐに確認する

[◎]をタッチする。画像を消すには、[🗑]→[はい]をタッチする。[↩]をタッチすると、スタンバイに戻る。

- 画像サイズについては、45ページをご覧ください。

見る

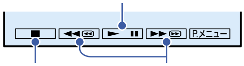
1 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、「見る/編集」ランプを点灯させる。



2 再生を始める。

動画のとき

[◀◀]をタッチして見たい位置まで巻戻し、[▶ II]をタッチして再生する。

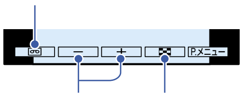


* タッチするたびに切り換わります。一時停止が3分以上続くと、自動的に停止します。

静止画のとき

[メモリー]をタッチする。

最後に撮影した画像が表示される。



- "メモリースティック　デュオ"が入っていなかったり、"メモリースティック　デュオ"に画像が入っていないときには、[メモリー] が表示されません。

動画の音量を調節する

明るさ/音量レバーを上下に動かして調節する(25ページ)。

動画を見ながら場面を探す

[▶▶]/[◀◀]をタッチしたままにする(ピクチャーサーチ)。

早送り中に見るときは[▶▶]を、巻戻し中は[◀◀]をタッチしたままにする(高速アクセス)。

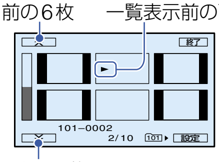
- テープは[変速再生]できます(50ページ)。

"メモリースティック　デュオ"の画像を一覧表示する(インデックス表示)

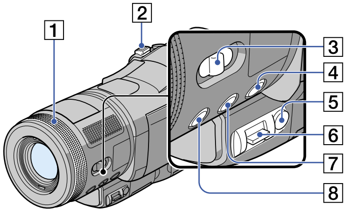
[ ]をタッチする。いずれかの画像をタッチすると1枚表示になる。

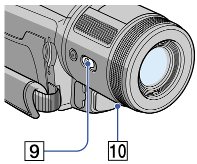
別フォルダの画像を見るときは、[ ]→[設定]→[再生フォルダ選択]をタッチし、[▲]/[▼]で選び[OK]をタッチする(47ページ)。

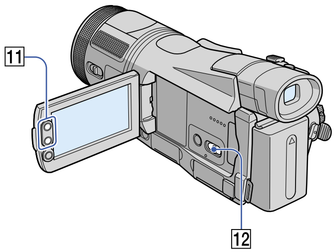
インデックス表示時の画面



撮る/見るときに使う機能など





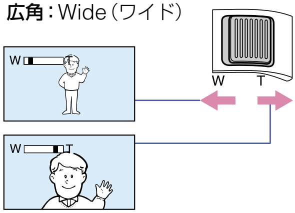


撮るとき

ズームする .... [1][2][3][11]

ズームレバー [2] を軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームする。

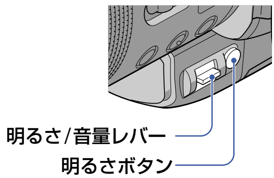
広角：Wide（ワイド）



望遠：Telephoto（テレフォト）

- ズームリング [1] を使うときは、フォーカス/ズームスイッチ [3] を「ズーム」にしてから好みの速さで回してください（ が表示される）。
- 液晶画面の横のズームボタン [11] ではズームする速さを変えることはできません。
- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。
- 倍率が10倍を超えたときに、[デジタルズーム]（44ページ）できます。
- ズームリングを速く回しすぎると、ズームがリングの回転に追いつけないことがあります。

画像の明るさを手動で固定する（カメラ明るさ）........................ [5][6]



画像の明るさを手動で固定できます。例えば、日中の屋内撮影時に壁側で明るさを固定すれば、窓際の人物が逆光で暗く写るのを防げます。あらかじめオートロックスイッチを「切」にしておいてください（23ページ）。

① 明るさボタン [5] を押す。

② 明るさ/音量レバー [6] を上下に動かして、明るさを調節する。
 が表示されます。明るさ/音量レバーを上に動かすと明るくなり、下に動かすと暗くなります。

- 自動調節に戻すには、再度明るさボタンを押してください。
- 電源スイッチを「切」にして12時間以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

暗い場所で撮る（NightShot）.......... [9]

NIGHTSHOTスイッチ [9] を「入」にする。（ と [" NIGHTSHOT"] が表示される。）

- さらに高感度で撮影するにはSuper NightShot（43ページ）、薄暗い場所でも明るくカラーで撮影するにはColor Slow Shutter（43ページ）が使えます。

- NightShotとSuper NightShotは赤外線を利用するため、赤外線発光部 10 を指などで覆わず、コンバージョンレンズ(別売り)は外してください。
- ピントが合いにくいときは、手動でピント合わせしてください(23ページ)。
- 明るい場所で使うと、故障の原因になります。

被写体をより際だたせる(テレマクロ)................................ 8

テレマクロボタン 8 を押す。T🌷が表示され、ズームが自動で望遠(T側)になり、約48cmまでの近接撮影ができます。花や昆虫など小さいものを撮るときに便利です。



解除するには、もう1度押す。またはズームを広角(W側)にする。

- 被写体が遠いときはピントが合いにくく、ピントが合うまでに時間がかかる場合があります。
- ピントが合いにくいときは、手動でピント合わせしてください(23ページ)。

オートロックスイッチを使う.......... 12

オートロックスイッチ 12 を「切」にすると、以下を手動で調節できる。「入」にすると、オートになる。

- [スポット測光]
- カメラ明るさ
- [プログラムAE]
- [ホワイトバランス]
- [シャッタースピード]

- 「切」で手動調節した設定は、「入」に戻したり、再度「切」にしても設定を保持します。
- 別売りのフラッシュを使うときは、オートロックスイッチを「入」にすることをおすすめします。

手動でピントを合わせる 1 3

① フォーカス/ズームスイッチ 3 を「手動」にする(F表示が表示される)。

② フォーカスリング 1 を回して、ピントが合うように調節する。

自動ピント合わせに戻すには、フォーカス/ズームスイッチを「自動」にする。

- ピントに合わせる被写体を意図的に変えるときにも使えます。
- Fは、ピントをそれ以上遠くに合わせられないとき▲に変わり、それ以上近くに合わせられないとき●に変わります。
- ピントは、始めにズームレバーをT側(望遠)でピントを合わせてから、W側(広角)に戻してゆくと合わせやすくなります。接写時は、逆にズームをW側(広角)いっぱいにしてピントを合わせます。

画像を拡大してピントを合わせる(拡大フォーカス)..................... 3 7

① 撮影スタンバイ中にフォーカス/ズームスイッチ 3 を「手動」にする。

② 拡大フォーカスボタン 7 を押すと、画像が2倍に拡大される。ピント合わせが終わると自動的に通常の表示に戻る。

解除するには、拡大フォーカスボタンをもう1度押す。

- 拡大フォーカス中に液晶画面の[設定]を押すと、ピーキング設定ができます。[入]にすると画像の輪郭が赤く強調されるので、ピントを合わせやすくなります。
- ピーキングはテープに記録されません。

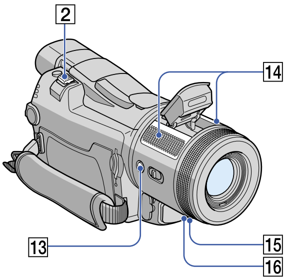
逆光を補正する............................. 4

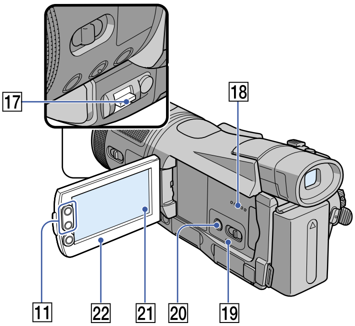
逆光補正ボタン 4 を押すと☒が表示されて、補正される。解除するには、もう1度押す。

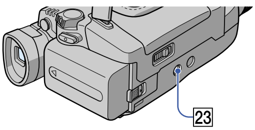
- 電源スイッチを「切」にして12時間以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

撮る/見る

次のページへつづく ➡

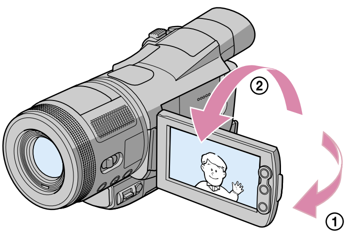






自分撮り(対面撮影)する .... [22]

液晶画面[22]を90°まで開き(①)、レンズ側に180°回す(②)。



- 液晶画面には、左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

フラッシュを使う .... [13]

⚡(フラッシュ)ボタン[13]を繰り返し押して、お好みの設定を選ぶ。

表示なし(自動調節):撮影状況により光量が足りないと判断した場合、自動的に発光する。

↓

⚡(強制発光):周囲の明るさに関係なく、常に発光する。

↓

(発光禁止):常に発光しない。

- 内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.5m ～ 2.5mです。
- フラッシュ表面に付着した汚れは取り除いて使ってください。光による熱で汚れが変色したり、貼り付くなどしてフラッシュが充分な量を発光できなくなることがあります。
- フラッシュランプは、フラッシュ充電中に点滅し、充電が完了すると点灯に変わります。
- フラッシュは、電源スイッチの位置が「撮る－メモリー」のときのみ、使うことができます。
- 逆光時など明るい場所では、強制発光を行ってもフラッシュ効果が得られにくいことがあります。
- [フラッシュ設定]の[フラッシュレベル]で発光量を手動で変えたり、[赤目軽減]で目が赤く写るのを抑制したりできます(42ページ)。

三脚を使って撮る .... [23]

三脚(別売り、ネジの長さが5.5mm以下)を三脚用ネジ穴[23]に取り付けます。

見るとき

再生ズームする......................... [2][11]

"メモリースティック　デュオ"の静止画を約1.5 ～ 5倍の範囲でズームできます。

倍率はズームレバー[2]または液晶画面の横のズームボタン[11]で調整できます。

① 拡大したい画像を表示する。

② T(望遠)で画像を拡大する。

③ 画面中央に表示したい部分をタッチする。

④ W（広角）/ T（望遠）で画像の大きさを調節する。

終了するには、[終了]をタッチする。

- 液晶画面の横のズームボタンではズームする速さを変えることはできません。

動画の音量を調節する 17

明るさ/音量レバー 17 を上下に動かして調節する。上に動かすと大きく、下に動かすと小さくなる。

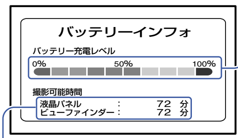
- 基本設定→[音量]でも調節できます（53ページ）。

撮る/見る共通

バッテリーの残量を確認する（バッテリーインフォ）............................20

電源スイッチを「切（充電）」にしたあと、画面表示/バッテリーインフォボタン 20 を押すと、選択している録画フォーマットでの録画可能時間とバッテリーの情報が約7秒間表示されます。情報が表示されている間にボタンを押すと、最大20秒まで表示を延長できます。

およそのバッテリー残量



およその撮影可能時間

操作音を消す 21

[操作音]（56ページ）で設定できます。

お買い上げ時の設定に戻す 19

RESET（リセット）ボタン 19 を押すと、日時を含めすべての設定が解除されます（パーソナルメニューに設定した内容は解除されません）。

その他の部分の名前とはたらき

14 内蔵ステレオマイク

外部マイクをつないだときは、その音声が優先されます。

15 録画ランプ

録画時に赤く点灯します（56ページ）。

16 リモコン受光部

リモコン（30ページ）は、リモコン受光部に向けて操作します。

18 スピーカー

再生時の音声が聞けます。

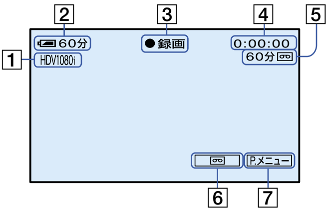
- 音量調節については、21ページをご覧ください。

撮る/見るときの画面表示

( )内は参照ページ。
撮影中の画面表示は録画されません。

動画を撮影中

「撮る–テープ」モードのとき



1 録画フォーマット(HDV1080iまたはDV)(51)
録画フォーマットがDVのときは、録画モード(SPまたはLP)も表示される。

2 バッテリー残量の目安

3 撮影状態([スタンバイ]/[●録画])

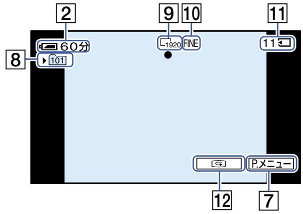
4 タイムコード(時:分:秒:フレーム)/テープカウンター(時:分:秒)

5 テープ残量の目安(56)

6 エンドサーチ/レックレビュー画面切り換えボタン(29)

7 パーソナルメニューボタン(36)

静止画を撮影中



8 記録先のフォルダ(47)

9 画像サイズ(45)

10 画質([FINE]または[STD])(45)

11 “メモリースティック　デュオ”表示と記録可能なおおよその枚数

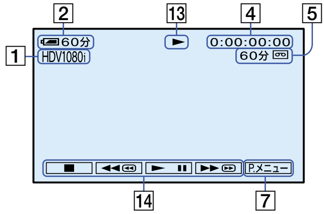
12 レビューボタン(20)

撮影時のデータについて

撮影中の日付時刻と撮影条件を示したカメラデータが自動的に記録されます。
これらのデータは、撮影中には表示されませんが、再生時に[日時/カメラデータ表示]として確認できます(55ページ)。

動画を再生中

テープのとき

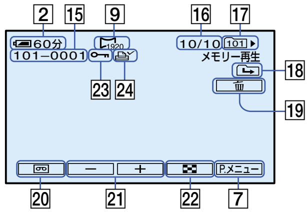


13 テープ走行表示

14 ビデオ操作ボタン（21）

- HDV規格とDV規格が混在したテープを再生するときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに、一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。

静止画を再生中



15 データファイル名

16 再生中の画像番号/フォルダ内の合計枚数

17 再生フォルダ（47）

18 前後フォルダ表示
“メモリースティック　デュオ”内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初/最後の画像になると表示される。
: [−]で前フォルダへ
: [+]で次フォルダへ
: [−]/[+]で前/次フォルダへ

19 画像消去ボタン（65）

20 テープ再生切り換えボタン（21）

21 前の画像/次の画像ボタン（21）

22 インデックス表示ボタン（21）

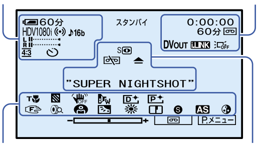
23 プロテクト（65）

24 プリントマーク（66）

設定を変更したときの表示

[表示ガイド]で、各表示の説明を液晶画面でも確認できます([表示ガイド]、16ページ)。

画面左上　　　　　　画面右上



画面下　　　　　　画面中央

画面左上

表示	意味
HDV1080i DV	録画フォーマット(52)
	サラウンド外部マイク設定(53)
♪16b	音声モード(52) *
BRK	連写(45)
SP LP	録画モード(52) *
	セルフタイマー録画(44)
4:3	ワイド切換(52) *
	インターバル静止画記録(49)
	フラッシュ (42)
L R	入力レベルメーター(53)

画面右上

表示	意味
HDVIN DVIN	HDV入力/DV入力(63)
HDVOUT DVOUT	HDV出力/DV出力(32、62)
i.LINK	i.LINK接続(32、62、63)
→0←	ゼロセットメモリー(30)
all 1	スライドショー (48)
OFF	液晶バックライト 切(15)

画面中央

表示	意味
	NightShot(22)
S	Super NightShot(43)
	Color Slow Shutter(43)
	PictBridge接続中(66)
	警告(91)

画面下

表示	意味
AS	AEシフト(42)
WS	WBシフト(42)
P	ピクチャーエフェクト(48)
D	デジタルエフェクト(48)
F	手動フォーカス(23)
	プログラムAE(40)
	シャープネス(41)
	逆光補正(23)
	ホワイトバランス(40)
OFF	手ぶれ補正(44)
	ゼブラ(43)
T	テレマクロ(23)
	カメラ色のこさ(42)
	ズームリング(22)
S	シャッタースピード(41)
W T	コンバージョンレンズ(44)

* DV規格のときのみ設定できます。

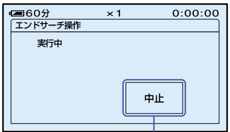
撮影を始めるテープ位置を頭出しする

電源スイッチを「撮る－テープ」にして操作してください（20ページ）。

最後に録画した場面を頭出しする（エンドサーチ）

カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。

→ をタッチする。



中止するには
ここをタッチ

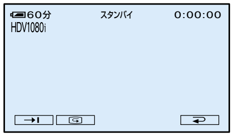
最後に録画した場面の約5秒間が再生され、録画終了した場面でスタンバイになる。

- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。
- メニューからも[エンドサーチ操作]できます。電源ランプの位置が「見る/編集」のときは、パーソナルメニュー（36ページ）にショートカットがあります。

テープを停止した場面を確認する（レックレビュー）

テープを停止させた場面を約2秒間再生し、確認できます。

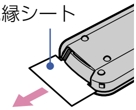
→ をタッチする。

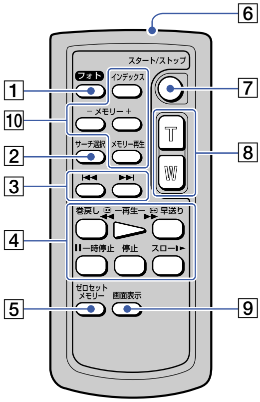


停止した部分が約2秒間再生され、スタンバイに戻る。

リモコンで使う

絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。





1 フォトボタン（20ページ）
押したときの画像が静止画として記録されます。

2 サーチ選択ボタン（31ページ）

3 ⏮ ⏭ ボタン

4 ビデオ操作ボタン（巻戻し、再生、早送り、一時停止、停止、スロー）（21ページ）

5 ゼロセットメモリーボタン

6 リモコン発光部

7 録画スタート/ストップボタン（20ページ）

8 ズームボタン（22、24ページ）

9 画面表示ボタン（16ページ）

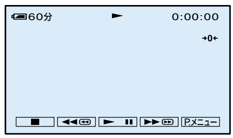
10 メモリー操作ボタン（インデックスボタン、－/＋ボタン、メモリー再生ボタン）（21ページ）

- 本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください（25ページ）。
- 電池交換については、104ページをご覧ください。

見たい場面にすばやく戻す（ゼロセットメモリー）

1 再生中に後で頭出ししたい場面で、ゼロセットメモリーボタン 5 を押す。

テープカウンターが「0:00:00」になり、→0←が点灯する。



テープカウンターが表示されないときは、画面表示ボタン 9 を押す。

2 見終わったら、停止ボタン 4 を押す。

3 ◀◀ 巻戻しボタン 4 を押す。

「0:00:00」付近になると、自動的に停止する。

4 再生ボタン 4 を押す。

「0:00:00」の場面からもう1度再生する。

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が生じることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

ゼロセットメモリーを解除するには

もう１度ゼロセットメモリーボタン[5]を押す。

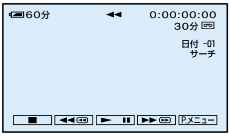
撮影日でテープを頭出しする（日付サーチ）

撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 **電源スイッチを「見る/編集」にする。**

2 **サーチ選択ボタン[2]を押す。**

3 **⏮（前の日付）/⏭（後の日付）ボタン[3]を押して頭出しする。**



日付サーチを中止するには

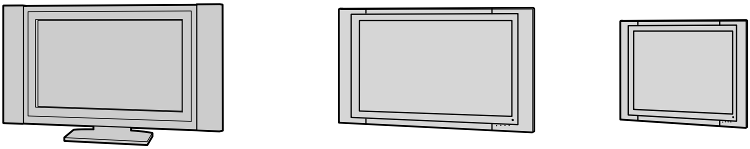
停止ボタン[4]を押す。

- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

テレビにつないで見る

テレビの種類や接続する端子によって接続方法や再生される画質が異なります。
電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（11ページ）。
また、接続についてのご注意（35ページ）やつなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

お使いのテレビの種類と付いている端子から、接続方法を選ぶ。



ハイビジョンテレビ
→HD（ハイビジョン）画質＊

コンポーネント（D端子）	i.LINK端子（HDV 1080i対応）	コンポーネント（ピン端子）
A	B	C

接続方法
→33ページ

接続方法についてのご注意
→35ページ

ワイドテレビ/4：3テレビ
→SD（標準）画質＊

コンポーネント（D端子）	i.LINK端子	S（S1、S2）端子	映像音声端子
D	E	F	G

接続方法
→34ページ

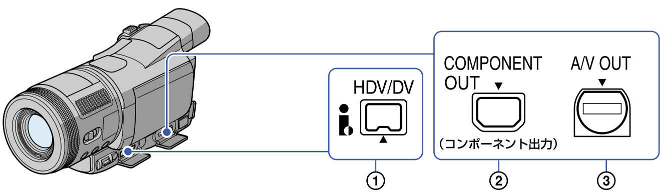
接続方法についてのご注意
→35ページ

- 本機のメニュー設定は接続の前に行ってください。i.LINKケーブルにつないでから［ビデオHDV/DV］や［i.LINK DV変換］の設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。

* DV規格で撮影した画像はどの接続でもSD（標準）画質で再生されます。

本機の端子について

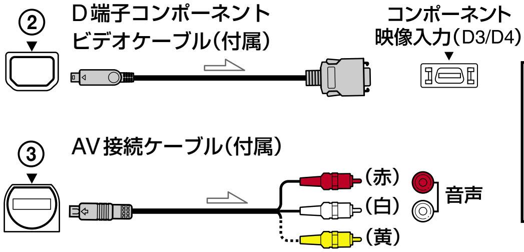
端子カバーを開けて接続してください。



: 信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

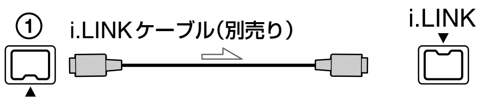
A



音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート](51ページ)
[コンポーネント出力]
→[D3](54ページ)

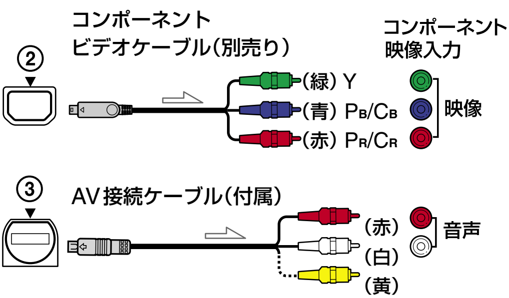
B



テレビには、HDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。対応のテレビについては、97ページをご覧ください。

基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート](51ページ)
[i.LINK DV変換]
→[切](54ページ)

C



音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

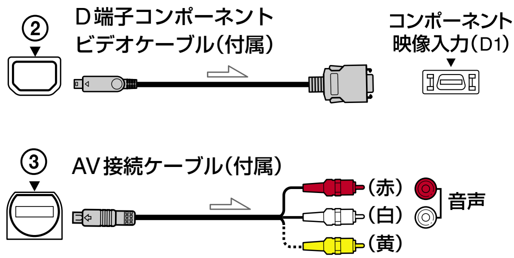
基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート](51ページ)
[コンポーネント出力]
→[D3](54ページ)

次のページへつづく ➡

：信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

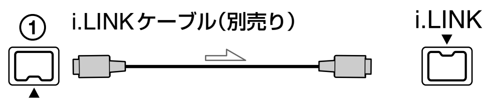
D



音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子（赤と白）につないでください。

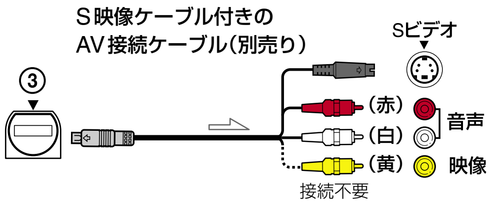
基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート]（51ページ）
[コンポーネント出力]
→[D1]（54ページ）
[TVタイプ]
→[16:9] / [4:3] *（54ページ）

E



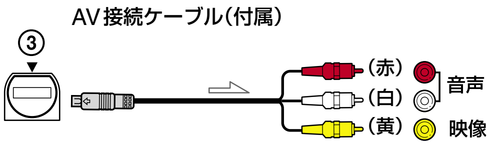
基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート]（51ページ）
[i.LINK DV変換]
→[入]（54ページ）
[TVタイプ]
→[16:9] / [4:3] *（54ページ）

F



基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート]（51ページ）
[TVタイプ]
→[16:9] / [4:3] *（54ページ）

G



基本設定
[ビデオ HDV/DV]
→[オート]（51ページ）
[TVタイプ]
→[16:9] / [4:3] *（54ページ）

* お使いのテレビに合わせて設定してください。

接続についてのご注意

接続方法	ご注意
A	• D端子コンポーネントケーブル(付属)のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはAV接続ケーブル(付属)の白と赤のプラグも接続してください。 • 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、コンポーネント出力端子から出力することはできません。
B	• HDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。詳しくはお使いのテレビのメーカーにお問い合わせください。対応する機種の情報については、97ページまたは以下のURLをご覧ください。 http://www.sony.co.jp/cam/support • テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
C	• コンポーネントケーブル(別売り)のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはAV接続ケーブル(付属)の白と赤のプラグも接続してください。 • 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、コンポーネント出力端子から出力することはできません。
D	• D端子コンポーネントケーブル(付属)のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはAV接続ケーブル(付属)の白と赤のプラグも接続してください。 • 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、コンポーネント出力端子から出力することはできません。
E	• テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
F	• S(S1、S2)映像端子のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはS映像ケーブル付きのAV接続ケーブル(別売り)の白と赤のプラグも接続してください。 • AV接続ケーブル(接続 G)に比べ、画像をより忠実に再現できます。 • 本機はS1映像端子対応のため、つなぐ端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。
G	———

• i.LINK以外の端子から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、コンポーネントビデオ端子→S(S1、S2)映像端子→映像/音声端子の順で優先されます。

• i.LINKについて詳しくは101ページをご覧ください。

テレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の比率を変えるには

ご覧になるテレビに合わせて[TVタイプ]を変更してください(54ページ)。

• DV規格で記録したテープをワイド信号非対応の4:3テレビで再生する場合は、撮影時に[ワイド切換]を[4:3]に設定してください(52ページ)。

ビデオがテレビにつながっているときは

ビデオの入力端子によって60ページで接続方法を選ぶ。ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換える。

モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときは

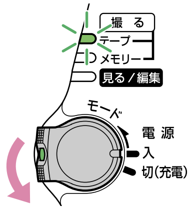
AV接続ケーブル(付属)の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力へつなぐ。モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

メニューの使いかた

このページ以降のメニューは、下記の方法で操作してください。

1 電源スイッチを矢印の方向に繰り返しずらして、ランプを点灯させる。

「撮る－テープ」ランプ：テープの設定
「撮る－メモリー」ランプ：
“メモリースティック デュオ”の設定
「見る／編集」ランプ：見る／編集の設定



2 液晶画面をタッチして、項目を設定する。

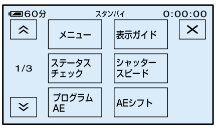
灰色に表示されるメニューは、使用できません。

■ パーソナルメニューのショートカットを使うときは

パーソナルメニューには、よく使うメニューへのショートカットが、登録されています。

- パーソナルメニューはお好みの設定に変更できます（58ページ）。

① [P.メニュー]をタッチする。

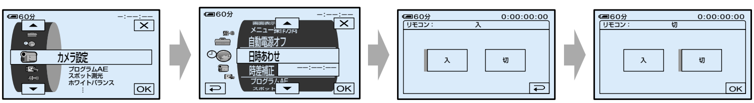


② 希望の項目をタッチする。
画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。
③ 希望の設定にし、[OK]をタッチする。

■ メニュー項目を使うときは

パーソナルメニューに登録されていないメニュー項目も設定できます。

① ② ③ ④



① [P.メニュー] → [メニュー]の順にタッチする。
メニューインデックス画面が表示される。
② 設定するメニューを選ぶ。
[▲]/[▼]をタッチして選び、[OK]をタッチして決定する。（手順③も同様の操作です。）
③ 設定する項目を選ぶ。

• 設定する項目をタッチしても選べます。

④ 希望の設定にする。

設定し終わったら、[OK]→[×]（閉じる）の順にタッチして、メニュー画面を消す。

設定を変更しないで戻るときは、[↩]をタッチする。

メニュー一覧

ランプの点灯位置によって、使用可能(●)メニューが異なります。

カメラ設定メニュー（40ページ）

ランプ点灯位置：	テープ	メモリー	見る/編集
プログラムAE	●	●	–
スポット測光	●	●	–
ホワイトバランス	●	●	–
シャープネス	●	●	–
シャッタースピード	●	–	–
オートシャッター	●	–	–
AEシフト	●	●	–
カメラ色のこさ	●	●	–
WBシフト	●	●	–
スポットフォーカス	●	●	–
フラッシュ設定	–	●	–
SUPER NS	●	–	–
NSライト	●	●	–
COLOR SLOW S	●	–	–
ゼブラ	●	●	–
ヒストグラム	●	●	–
セルフタイマー	●	●	–
デジタルズーム	●	–	–
手ぶれ補正	●	–	–
コンバージョンレンズ	●	–	–

メモリー設定メニュー（45ページ）

ランプ点灯位置：	テープ	メモリー	見る/編集
静止画設定	–	●	●
全消去	–	–	●
フォーマット	–	●	●
ファイルナンバー	–	●	●
フォルダ作成	–	●	●
記録フォルダ選択	–	●	●
再生フォルダ選択	–	–	●

ピクチャーアプリメニュー（47ページ）

ランプ点灯位置：	テープ	メモリー	見る/編集
フェーダー	●	–	–
スライドショー	–	–	●
デジタルエフェクト	●	–	●
ピクチャーエフェクト	●	–	●
インターバル静止画記録	–	●	–
ショットトランジション	●	–	–
デモモード	●	–	–
PictBridgeプリント	–	–	●

ランプ点灯位置：	テープ	メモリー	見る/編集
編集/変速再生メニュー（50ページ）			
変速再生	–	–	●
録画操作	–	–	●
DVD作成	–	–	●
エンドサーチ操作	●	–	●
基本設定メニュー（51ページ）			
ビデオ　HDV/DV	–	–	●
録画フォーマット	●	–	–
DV設定 DV	●	–	●
音量	●	●	●
バイリンガル	–	–	●
マイク音レベル	●	–	–
サラウンド外部マイク設定	●	–	–
パネル・VF設定	●	●	●
コンポーネント出力	●	●	●
i.LINK DV変換	●	–	●
TVタイプ	●	–	●
USB機能選択	–	–	●
表示ガイド	●	●	●
ステータスチェック	●	–	●
ガイドフレーム	●	●	–
カラーバー	●	–	–
日時/カメラデータ表示	–	–	●
残量表示	●	–	●
リモコン	●	●	●
録画ランプ	●	●	–
操作音	●	●	●
画面表示出力	●	●	●
メニュー操作方向	●	●	●
自動電源オフ	●	●	●
キャリブレーション	–	–	●
時間設定メニュー（57ページ）			
日時あわせ	●	●	●
時差補正	●	●	●

カメラ設定メニュー

撮影状況に合わせるための設定(スポット測光/ホワイトバランス/手ぶれ補正など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は36ページをご覧ください。

プログラムAE

場面に合わせて、効果的な画像で撮影できます。あらかじめオートロックスイッチを「切」にしておいてください(23ページ)。

▶オート
プログラムAEを使わずに、自動的に効果的な画像になる。

スポットライト*( )
スポットライトを浴びている人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぐ。



ソフトポートレート( )
背景をぼかして、前にいる人物や花などをソフトに引き立る。



ビーチ&スキー*( )
照り返しの強い砂浜やゲレンデで、人物が陰にならなくする。



サンセット&ムーン( )**
夕焼けや夜景、花火などを雰囲気たっぷりに表現する。



風景( )**
遠景まではっきり撮影できる。ガラスや金網越しに撮るときも、向こうの被写体にピントが合うようになる。

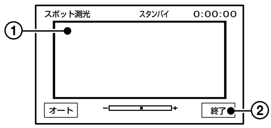


* は近くのものにピントが合わないように設定されます。
** は遠景のみにピントが合うように設定されます。

- 電源を「切」にして12時間以上経つと、[オート]に戻ります。

スポット測光(フレキシブルスポット測光)

被写体が最適な明るさで映るように画面全体の明るさを調節し、固定できます。舞台上の人物の撮影など、被写体と背景のコントラストが強いときに使います。あらかじめオートロックスイッチを「切」にしておいてください(23ページ)。



① 画面枠内の明るさを調節したいポイントをタッチ。
　-━━━━+が表示されます。
② [終了]をタッチ。

自動調節に戻すには、[オート]→[終了]をタッチ。

- フレキシブルスポット測光中は、カメラ明るさは自動的にマニュアルになります。

ホワイトバランス

撮影する場面に合わせて色合いを調節できます。あらかじめオートロックスイッチを「切」にしておいてください(23ページ)。

▶オート
自動調節されます。

屋外（☀）

以下の撮影環境に合った色合いになる。

– 屋外
– 夜景やネオン、花火など
– 日の出、日没など
– 昼光色蛍光灯の下

屋内（☼）

以下の撮影環境に合った色合いになる。

– 屋内
– パーティー会場やスタジオなど照明条件が変化する場所
– スタジオなどのビデオライトの下、ナトリウムランプや電球色蛍光灯の下

ワンプッシュ（⊿■⊿）

光源に合わせてホワイトバランスを固定する。

① [ワンプッシュ]をタッチ。

② 被写体を照らす照明条件と同じところに白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

③ [⊿■⊿]をタッチ。

⊿■⊿が速い点滅に変わり、ホワイトバランスが調節される。終わると点灯に変わる。

- ⊿■⊿の速い点滅中は、白い物を映し続けてください。
- ⊿■⊿の遅い点滅は、設定できなかった場合を表します。
- [OK]をタッチ後も⊿■⊿が点滅するときは、[オート]にしてください。

- [オート]でバッテリーを交換したときは、白っぽい被写体に向けて[オート]で約10秒間撮影すると、より良い色合いになります。
- [ワンプッシュ]設定中に、[プログラムAE]の効果を変えたり、屋外と屋内を行き来したりしたときは、再び[ワンプッシュ]の手順を行ってください。
- 白色や昼白色の蛍光灯下では、[オート]または[ワンプッシュ]の手順で色合いを調節してください。
- 電源を「切」にして12時間以上経つと、[オート]に戻ります。

シャープネス

[－]/[＋]で画像輪郭をやわらかくするか、くっきりさせるかを調節して撮影できます。お買い上げ時の設定以外にすると、◫ が表示されます。

[－] ▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮ [＋]

やわらかな画像に ⟷ くっきりした画像に

シャッタースピード

シャッタースピードを自由に調節し、固定することができます。被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調して撮影するときに便利です。あらかじめ、オートロックスイッチを「切」にしておいてください（23ページ）。

▶オート

自動で調節するときに選ぶ。

マニュアル Ⓢ

[－]/[＋]でシャッタースピードを調節する。

1/10000秒から1/4秒の範囲で選べます。

遅い [－]………125, 180, 250………[＋] 速い

- シャッタースピードを1/100秒に設定すると、画面には[100]と表示されます。
- 輝度の高い被写体を撮影するときは、シャッタースピードを速くすることをおすすめします。
- シャッタースピードが遅いと、自動でピントが合いにくくなります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせることをおすすめします。
- 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると画面に横帯が発生したり、色が変化したりすることがあります。このようなときは、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100、関西地方など60Hzの地域では1/60に設定することをおすすめします。（設定をすると手ぶれ補正が働き

次のページへつづく ➡

にくくなる場合があります。）

- 電源スイッチを「切」にして12時間以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

オートシャッター

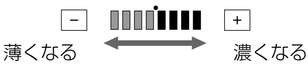
［入］（お買い上げ時の設定）のとき、明るい場所では電気的にシャッタースピードを調節して撮影します。

AEシフト

カメラ明るさ（22ページ）がオートのとき、［－］（暗く）/［＋］（明るく）で露出をお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、ASと設定した数値が表示されます。

カメラ色のこさ

［－］/［＋］で画像の色の濃淡をお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、が表示されます。



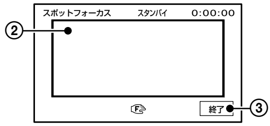
WBシフト（ホワイトバランスシフト）

［－］/［＋］でホワイトバランスをお好みに合わせて調節できます。お買い上げの設定以外にすると、WS と設定した数値が表示されます。

- 数値を下げると画像が青味がかり、数値を上げると赤味がかります。

スポットフォーカス

画面中央から外れた被写体を基準にして、ピントを合わせられます。



① フォーカス/ズームスイッチを「手動」にする（23ページ）。

② 画面枠内の被写体にタッチ。

③ ［終了］をタッチ。

自動ピント合わせに戻すには、フォーカス/ズームスイッチを「自動」にする。

フラッシュ設定

■ フラッシュレベル

明るい（⚡+）
発光量が増える。

▶ノーマル（⚡）

暗い（⚡–）
発光量が減る。

■ 赤目軽減

撮影前に予備発光して、目が赤く光るのを抑制します。
［入］に設定して⚡（フラッシュ）ボタン（24ページ）を繰り返し押し、お好みの設定を選ぶ。

◉（自動赤目軽減）：自動でフラッシュ撮影するときのみ、予備発光し、撮影時に発光
↓
◉ ⚡（強制赤目軽減）：常に予備発光し、撮影時に発光
↓
⚡（発光禁止）：常に発光しない。

- 赤目軽減で撮影しても、効果が現れにくいことがあります。

SUPER NS (Super NightShot)

あらかじめ、NIGHTSHOTスイッチ（22ページ）を「入」にした状態で、「入」に設定すると、暗い場所でNightShotの最大16倍の感度で撮影できます。と[" SUPER NIGHTSHOT"]が表示されます。

通常設定に戻すには、NIGHTSHOTスイッチを「切」にする。

- 明るい場所で使うと、故障の原因となります。
- 赤外線発光部を指などで覆わないでください。
- コンバージョンレンズ（別売り）は外してください。
- ピントが合いにくいときは、手動でピント合わせしてください（23ページ）。
- シャッタースピードが明るさによって変わり、画像の動きが遅くなることがあります。

NSライト（NightShotライト）

[入]（お買い上げ時の設定）のとき、NightShot（22ページ）と[SUPER NS]（43ページ）撮影時に、赤外線（不可視）を発光する[NSライト]でよりはっきりした画像を撮影できます。

- 指などで赤外線発光部を覆わないでください。
- コンバージョンレンズ（別売り）は外してください。
- ライトが届く範囲は約3メートルです。

COLOR SLOW S (Color Slow Shutter)

［入］に設定すると、薄暗い場所でも明るくカラーで撮影できます。
と［COLOR SLOW SHUTTER］が表示されます。

解除するには、［切］をタッチ。

- ピントが合いにくいときは、手動でピント合わせしてください（23ページ）。
- シャッタースピードが明るさによって変わり、画像の動きが遅くなることがあります。

ゼブラ

明るさを調節するときの目安にすると便利です。お買い上げ時の設定以外にすると、が表示されます。ゼブラは記録されません。

▶切
表示しない。

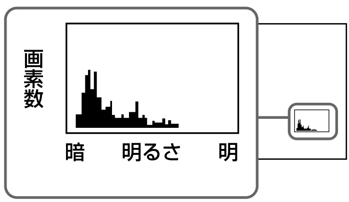
70
輝度レベルが約70IREの部分に表示

100
輝度レベルが約100IRE以上の部分に表示

- 100IRE以上の部分は白とびすることがあります。
- ゼブラとは、画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分に表示される縞模様のことです。

ヒストグラム

［入］に設定すると、ヒストグラム（画像の明るさの分布を表した図（グラフ））が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。ヒストグラムを見ながら、カメラ明るさや［AEシフト］を調節することができます。ヒストグラムは記録されません。



- グラフの左側は画面の暗い部分、右側は明るい部分を示します。

セルフタイマー

約10秒後に撮影を開始できます。

① P.メニュー →［セルフタイマー］→［入］→ OK の順にタッチ。
　が表示される。

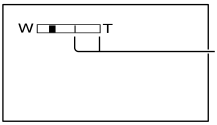
② 動画のときは、録画スタート/ストップボタン、静止画の時はフォトボタンを押す。
　秒読みを停止するには［リセット］をタッチ。

解除するには、手順①で［切］をタッチ。

- リモコンでも使えます（30ページ）。

デジタルズーム

テープ撮影時に、10倍光学ズーム（お買い上げ時の設定）を超えてデジタルズームになったときの最大倍率を設定します。デジタル処理のため画質は劣化します。



ラインよりT側がデジタルズームになります。倍率を選ぶと表示されます。

▶**切**
10倍光学ズームのみ

20×
10倍光学ズーム～最大20倍までのデジタルズーム

120×
10倍光学ズーム～最大120倍までのデジタルズーム

手ぶれ補正

お買い上げ時の設定は［入］のため、手ぶれ補正を使って撮影できます。三脚（別売り）を利用するときは、［切］（）にすると自然な画像になります。

コンバージョンレンズ

コンバージョンレンズ（別売り）を使用するときに設定すると、それぞれのレンズに最適な手ぶれ補正を使って撮影できます。

▶**切**
コンバージョンレンズ（別売り）を使用しない。

ワイドコンバージョン（）
ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使用する。

テレコンバージョン（）
テレコンバージョンレンズ（別売り）を使用する。

メモリー設定メニュー

“メモリースティック デュオ”に関する設定（連写/画質/画像サイズ/全消去/フォルダ作成など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（ ）内の表示が画面に出ます。
操作方法は36ページをご覧ください。

静止画設定

■ 連写

フォトボタンを押したときに、静止画を連写できます。

▶切
連写しない。

ノーマル()
約0.5秒間隔で3枚（画像サイズは1920×1440）、5枚（画像サイズは1440×1080）から最大25枚（画像サイズは640×480）までの静止画を連写する。
フォトボタンを押したままにすると、最大枚数まで連写する。

ブラケット(BRK)
約0.5秒間隔に、露出を自動で変えた3枚の画像を連写する。3枚を見比べて明るさが最適な画像を選べる。

- 連写中はフラッシュは発光しません。
- セルフタイマーやリモコンで撮影時は、最大枚数まで連写します。
- “メモリースティック デュオ”の残量が3枚より少ないと、[ブラケット]に設定できません。
- ワイドのときは3枚の静止画（画像サイズは1920×1080）を連写できます。

■ 画質

▶ファイン（FINE）
高画質で記録する。

スタンダード（STD）
標準の画質で記録する。

■ 画像サイズ

▶1920×1440（1920）
鮮明な画像を撮影する。

1920×1080（1920）
鮮明な画像をワイド（16:9）で撮影する。

1440×1080（1440）
比較的きれいな画像をたくさん撮影する。

640×480（640）
たくさんの枚数を撮影する。

- ワイド（16:9）で撮影した静止画をお店でプリントするときは、注文時に「ハイビジョンサイズ」とご指定ください。ご指定がない場合、画像の左右が切れてプリントされます。

“メモリースティック デュオ”の容量（MB）と撮影可能枚数（枚）

電源スイッチが「撮る - メモリー」のとき

	1920×1440 1920	1920×1080 1920	1440×1080 1440	640×480 640
16MB（付属）	11 26	14 34	19 43	96 240
32MB	22 54	29 69	39 88	190 485
64MB	45 105	59 135	78 175	390 980
128MB	91 215	115 280	155 355	780 1970
256MB	165 395	215 500	280 640	1400 3550
512MB	335 800	435 1000	570 1300	2850 7200
1GB	680 1600	890 2100	1150 2650	5900 14500
2GB	1400 3350	1800 4300	2400 5500	12000 30000

電源スイッチが「撮る-テープ」または「見る/編集」のとき*

	1440×810 1440	1080×810 1080	640×480 640	640×360 640
16MB（付属）	25 60	34 80	96 240	115 240
32MB	51 120	69 160	190 485	240 485
64MB	100 240	135 325	390 980	490 980
128MB	205 490	280 650	780 1970	980 1970
256MB	370 890	500 1150	1400 3550	1750 3550
512MB	760 1800	1000 2400	2850 7200	3600 7200
1GB	1550 3650	2100 4900	5900 14500	7300 14500
2GB	3150 7500	4300 10000	12000 30000	15000 30000

* 画像サイズは以下の通り固定されます。
  – 電源スイッチが「撮る-テープ」で撮影画像がHDV規格、またはDV規格（16:9）のときは1440 × 810、DV規格（4:3）のときは1080 × 810。
  – 電源スイッチが「見る/編集」で再生画像がHDV規格のときは1440 × 810、DV規格（16:9）のときは640 × 360、DV規格（4:3）のときは640 × 480。

- 上段は画質が[ファイン]のとき、下段は画質が[スタンダード]のときの枚数です。
- ソニー製"メモリースティック　デュオ"使用時。枚数は、撮影環境によって変わります。

画像1枚のおよその容量(kB)

4:3のとき

1920×1440	1440×1080	1080×810	640×480
1380 580	800 350	450 190	150 60

16:9のとき

1920×1080	1440×810	640×360
1060 450	600 260	130 60

- 上段は画質が[ファイン]のとき、下段は画質が[スタンダード]のときの容量です。

全消去

プロテクトのかかっていない"メモリースティック　デュオ"内または選択フォルダ内の全画像を消します。

① [全ファイル]か[フォルダ内]を選ぶ。

[全ファイル]："メモリースティック　デュオ"内のすべての画像を消去。

[フォルダ内]：選択しているフォルダ内のすべての画像を消去。

② [はい]を2回→[X]をタッチ。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック　デュオ"は、誤消去防止を解除する（98ページ）。
- 全消去しても、フォルダは消去されません。
- [全消去中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック　デュオ"の取り出し

フォーマット

"メモリースティック　デュオ"（付属および別売り）はお買い上げ時にフォーマット済みのため、フォーマットする必要はありません。

フォーマットを実行するには、[はい]を2回→[X]をタッチ。
フォーマットされて、すべての画像が消去されます。

- [フォーマット中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック　デュオ"の取り出し

- 新しく作成したフォルダやプロテクトのかかっている画像もすべて消去されます。

ファイルナンバー

▶連番

"メモリースティック　デュオ"を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされる。

リセット

"メモリースティック　デュオ"ごとに、ファイル番号を0001から付ける。

フォルダ作成

"メモリースティック　デュオ"内に、新フォルダ（102MSDCF～999MSDCFまで）を作成できます。1つのフォルダが9999枚になると、自動的に新フォルダを作成します。

[はい]→[X]をタッチ。

- 1度作成した新フォルダは、本機で削除できません。"メモリースティック　デュオ"をフォーマットするか（46ページ）、パソコンなどで削除してください。
- フォルダが増えると、"メモリースティック　デュオ"の残量が減ることもあります。

記録フォルダ選択

[▲]/[▼]で記録するフォルダを選んで[OK]をタッチ。

- お買い上げ時の設定では、ファイルは「101MSDCF」に記録されます。
- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。

再生フォルダ選択

[▲]/[▼]で再生するフォルダを選んで[OK]をタッチ。

ピクチャーアプリメニュー

画像への特殊効果追加や、応用的な撮影/再生機能（スライドショー/ピクチャーエフェクトなど）

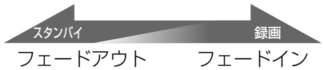
▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は36ページをご覧ください。

フェーダー

場面間に、効果を入れながら、つなぎ撮りできます。

① 使いたい効果を選んで、[OK]をタッチ。
② 録画スタート/ストップボタンを押す。
フェーダー表示が点灯に変わり、終了後消える。

解除するには①で[切]をタッチ。



ホワイトフェーダー



ブラックフェーダー



モザイクフェーダー



モノトーンフェーダー
フェードイン時は白黒→カラーに、
フェードアウト時はカラー→白黒になる。

スライドショー

“メモリースティック　デュオ”内の全画像、またはフォルダ内の全画像を自動再生（スライドショー）できます。

① [設定] →[再生フォルダ選択]をタッチ。
② [全ファイル(all)]か[フォルダ内(1)]を選び、[OK]をタッチ。
[フォルダ内(1)]を選ぶと、[再生フォルダ選択]（47ページ）で選んだフォルダ内の画像を自動再生する。
③ [繰り返し設定]をタッチ。
④ [入]または[切]を選び、[OK]をタッチ。
[入]（⮔）に設定すると、スライドショーを繰り返し、[切]に設定すると、スライドショーを1度だけで終了する。
⑤ [終了]→[スタート]をタッチ。

中止するには[終了]を、一時停止するには[ポーズ]をタッチ。

- [スタート]をタッチする前に、[－]/[＋]でスライドショーを始める画像を選べます。

デジタルエフェクト

演出を加えて画像を撮影したり、見たりできます。

① 設定する効果を選ぶ。
② [－]/[＋]で効果を調節して[OK]をタッチ。
[スチル]では、[スチル]をタッチしたときの画像が静止画として記憶される。

効果	調節内容
シネマチックエフェクト*	調整不要
スチル	背景の静止画の写り具合
フラッシュ	フラッシュの間隔
トレイル	残像時間
オールドムービー*	調節不要

* 撮影時のみ使えます。

③ [OK]をタッチ。
D✦が表示される。

解除するには手順①で[切]をタッチ。

シネマチックエフェクト
画質を調整し、映画のような雰囲気で撮影する。

スチル
記憶済みの静止画に、動画を重ねて撮影する。



フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

トレイル
残像が尾を引くように撮影する。

オールドムービー
昔の映画のようなセピア色の画像にする。

- [シネマチックエフェクト]を設定してテープ記録している間は、他のデジタルエフェクトに切り換えられません。
- 効果を加えて再生している画像を本機でテープに記録することはできません。
- 外部入力している画像に、効果を加えることはできません。また、再生画像にデジタルエフェクトを加えても i HDV/DV端子(i.LINK)からは、エフェクトがかかっていない画像が出力されます。
- 効果を加えた画像を、“メモリースティック　デュオ”に取り込んだり（64ページ）、他のビデオに録画したり（60ページ）できます。

ピクチャーエフェクト

特殊効果を加えて撮影したり、見たりできます。P✦が表示されます。

▶切
ピクチャーエフェクトを使わない。

ソフトスキントーン
肌をなめらかに美しく見せます。

ネガアート

ネガフィルムのような画像。



セピア

古い写真のような画像。

モノトーン

白黒の画像。

ソラリ

明暗がはっきりして、イラストのような画像。



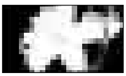
パステル

淡い色の画像*。



モザイク

タイルを組み合わせたような画像*。

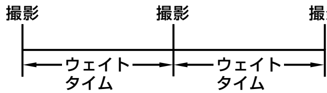


* 撮影時のみ設定できます。

- 逆光補正を設定しているとき、[ソフトスキントーン]は設定できません。また、[ソフトスキントーン]を設定した状態で逆光補正を設定すると、[ソフトスキントーン]は解除されます。
- 外部入力している画像に効果追加はできません。また、再生画像にピクチャーエフェクトを加えても i HDV/DV端子(i.LINK)からは、エフェクトがかかっていない画像が出力されます。
- 効果を加えた画像を他のビデオに録画することもできます。(60ページ)

インターバル静止画記録

一定時間ごとに"メモリースティック デュオ"へ静止画を記録します。雲の動きや日照変化などを定点観測撮影時に便利です。



① 設定 →希望のウェイトタイム(1分、5分、10分)→ OK → [入] → OK → ✕ をタッチ。

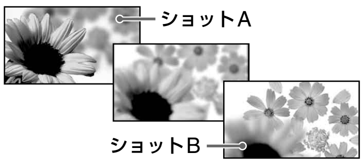
② フォトボタンを深く押す。

が点滅から点灯に変わり、インターバル静止画記録が始まる。

解除するには①で[切]にする。

ショットトランジション

ズーム、フォーカスの設定をあらかじめ登録し、登録した設定へなめらかに遷移(ショットトランジション)することができます。



登録する

フォーカス(23ページ)、ズーム(22ページ)を好みの設定にしてから、[登録A]を押す。[ショットA]が点滅して登録されます。同様に[登録B]も登録する。

実行する

[次へ]→[実行A]または[実行B]を押すと、登録した設定に遷移する。登録し直すには[戻る]を、終了するには[終了]をタッチ。

- 撮影中は[ショットトランジション]を選択できません。

次のページへつづく ➡

ピクチャーアプリメニュー（つづき）

- 約4秒間で登録した設定に遷移します。
- [ショットトランジション]を登録すると、[ホワイトバランス]の設定も登録されます。
- [ショットトランジション]中は画角が変わります。
- 手ぶれ補正がきかなくなるため、三脚を使うことをおすすめします。

デモモード

お買い上げ時の設定は[入]のため、カセットと"メモリースティック　デュオ"両方を取り出し、電源スイッチを「撮る－テープ」にすると約10分後に本機の機能のデモンストレーションを見ることができます。

- 次のいずれかを行うと、デモンストレーションを中断できます。
  – デモンストレーション中に画面をタッチ（約10分後に再開します）。
  – カセットか"メモリースティック　デュオ"を入れる。
  – 電源スイッチを「撮る－テープ」以外にする。

PictBridgeプリント

66ページをご覧ください。

編集/変速再生メニュー

編集/変速再生の設定（変速再生/エンドサーチ操作など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は36ページをご覧ください。

変速再生

テープの動画再生時に変速再生できます。

① 再生中に、下記のボタンをタッチ。

再生方法	タッチするボタン
逆方向に再生*	[◀II<]（コマ送り）
スロー再生**	[スロー▶] 逆方向には： [◀II<]（コマ送り）→ [スロー▶] DV
コマ送り	一時停止中に[>II▶]（コマ送り） 逆方向へはコマ送り中に： [◀II<]（コマ送り）DV

* 画面上下や中央に横じまが入ることがありますが、故障ではありません。
** HDV/DV端子（i.LINK）から出力される画像は、なめらかにスロー再生されません。

② [↩]→[×]をタッチ。

通常再生に戻すには、[▶II]（再生/一時停止）を2回タッチ（「コマ送り」は1回）。

- 音声は出ません。また、映像がモザイク状に残ることがあります。
- HDV規格の場合、一時停止や変速再生している映像をHDV/DV端子（i.LINK）から出力することはできません。
- HDV規格のテープでは、以下のとき画面が乱れます。
  – ピクチャーサーチ中
  – 逆方向再生中

録画操作

63ページをご覧ください。

DVD作成

本機をソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズに接続すると、テープに録画した画像を簡単にDVDに書き込むことができます(おまかせ「Click to DVD」)。詳しくは、「DVDを作る(おまかせ「Click to DVD」)」をご覧ください(74ページ)。

- DVDに取り込まれる画像はSD(標準)画質になります。

エンドサーチ操作

実行
最後に撮影した場面の約5秒間が再生され、自動的に止まる。

中止
エンドサーチを中止する。

基本設定メニュー

テープ撮影時の設定や、各種基本設定(録画モード/音声モード/パネル・VF設定/画面表示出力など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は36ページをご覧ください。

ビデオHDV/DV

再生するときの信号を選びます。通常は[オート]に設定してください。
i.LINKケーブル(別売り)接続時はi HDV/DV端子(i.LINK)から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。

▶オート
テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生する。
i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号に切り換えて、i HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。

HDV
テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はHDV規格の信号のみをi HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

DV
テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はDV規格の信号のみをi HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブル(別売り)を抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- [オート]を選ぶと、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。

次のページへつづく ➡

- [i.LINK DV変換]が[入]になっているときは、以下の信号が出力されます。
  - [オート]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。
  - [HDV]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。
  - [DV]のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

録画フォーマット

撮影する録画規格を選択できます。

▶HDV1080i（HDV1080i）
HDV規格の1080i方式で撮影するときに選ぶ。

DV（DV）
DV規格で撮影するときに選ぶ。

- 撮影中の画像をi.LINK出力するときは、[i.LINK DV変換]もあわせて設定してください。

DV設定 DV

■ 録画モード

▶SP（SP）
テープへSP（標準）モードで録画する。

LP（LP）
テープへSPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画する。

- LPモードで録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

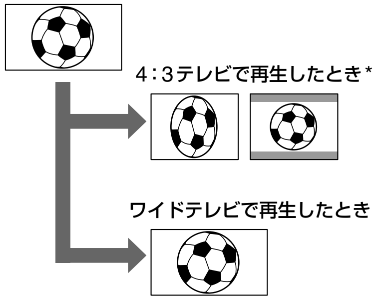
■ ワイド切換

つなぐテレビの画像の比率に合った画像サイズで撮影できます。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▶16:9　ワイド
ワイドテレビ画面（16:9）いっぱいに映るように撮影する。

4:3（4:3）
4:3テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

[16：9　ワイド]設定時に液晶画面 / ファインダーで見たとき



＊ 接続するテレビによって、再生時の表示のされかたが異なります。

- ワイド信号非対応の4:3テレビでは、[16:9 ワイド]で撮影した画像の天地はそのままで水平方向を圧縮して再生します。そのような4:3テレビ画面いっぱいに映るようにするには、[4:3]に設定して撮影してください。

■ 音声モード

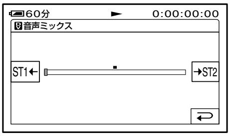
▶12BIT
テープへ12ビット（2つのステレオ音声）で記録する。

16BIT（♪16b）
テープへ16ビット（高音質で1つのステレオ音声）で記録する。

- HDV規格のときは、自動的に[16BIT]で記録されます。

■ 音声ミックス

他機でアフレコしたテープの音声を再生時に確認できます。



ST1← / →ST2で撮影時の音声(ST1：ステレオ1)とアフレコした音声(ST2：ステレオ2)の音声バランスを調整し、OKをタッチ。

- お買い上げ時は、ステレオ1の音のみが出る設定になっています。
- 調整したバランスは、電源を「切」にして12時間以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

音量

－ / ＋をタッチして調節します。

バイリンガル

他機で二重音声(またはステレオ音声)で記録したテープを、本機で再生するときの音声が選べます。

▶切
主＋副音声(またはステレオ音声)で再生する。

メイン
主音声(または左音声)で再生する。

サブ
副音声(または右音声)で再生する。

- 本機は二重音声を再生できますが、記録はできません。
- 電源を「切」にして12時間以上経つと、[切]に自動的に戻ります。

マイク音レベル

記録するときの音量を調節できます。

▶オート
自動で調節するときに選ぶ。

マニュアル
撮影またはスタンバイ中に、－ / ＋をタッチして音量を調節する。マイク音レベルを表したバーが表示されます。右にいくほどマイク音レベルが上がります。お買い上げ時以外の設定にすると、入力レベルメーターが表示されます。

- ヘッドホンをつけて、レベルを確認しながら操作することをおすすめします。
- 電源を「切」にして12時間以上経つと、自動的に[オート]に戻ります。
- 本機はリミッター回路を内蔵しているため、[マニュアル]を選択し、マイク音レベルを上げすぎた場合でも、自動的にゆがみを軽減した録音ができます。入力レベルメーターが頻繁に0dBまで到達しないように調整してください。

サラウンド外部マイク設定

▶ワイドステレオ(((•)))
マイクロホン(別売り)を取り付けて臨場感のある2chの音声を記録する。

ステレオ
通常のステレオ音声で記録する。

- [ワイドステレオ]で記録するときには、別売りのマイクロホンECM-HQP1などの対応アクセサリーが必要です。
- マイクロホンが取り付けられていないときには、設定に関わらず[ステレオ]で記録されます。

パネル・VF設定

設定を変更しても録画される画像に影響ありません。

■ パネル明るさ

液晶画面の明るさを調節できます。

① － / ＋で調節する。
② OK をタッチ。

- 液晶画面バックライトを消すこともできます(15ページ)。

■ パネルバックライトレベル

液晶画面バックライトの明るさを調節できます。

▶ノーマル
通常の設定（標準の明るさ）。

明るい
画面が暗いと感じたときに選ぶ。

- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。
- ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

■ パネル色のこさ

[−]/[＋]で液晶画面の濃さを調節できます。



薄くなる　濃くなる

■ VFバックライト

ファインダーの明るさを調節できます。

▶ノーマル
通常の設定（標準の明るさ）。

明るい
ファインダーが暗いと感じたときに選ぶ。

- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。
- ［明るい］を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビとつなぐときに選びます。

D1
D1端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

▶D3
D3/D4端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

i.LINK DV変換

電源スイッチが「撮る−テープ」のときは、［録画フォーマット］が［HDV1080i］のときに有効です。
電源スイッチが「見る/編集」のときは、［ビデオ HDV/DV］が［オート］か［HDV］のときに有効です。

▶切
［録画フォーマット］と［ビデオ HDV/DV］の設定に従って、HDV/DV端子（i.LINK）から信号を出力する。

入
HDV/DV端子（i.LINK）から出力される信号は、常にDVになる。

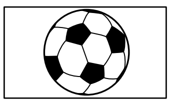
- i.LINK入力については、［ビデオ HDV/DV］をご覧ください（51ページ）。
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブル（別売り）を抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

TVタイプ

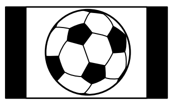
テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。撮影した画像は下記のように再生されます。

▶16:9
ワイドテレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像



DV規格画像



4:3
4:3テレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像



DV規格画像



- ID-1対応テレビやテレビのS（S1）映像入力端子につないで再生する場合、[TVタイプ]を[16:9]に設定してください。テレビが自動的に再生画像の比率に切り換わります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

USB機能選択

USBケーブル（付属）で画像をパソコンなどにつないで見たり（69ページ）、PictBridge規格対応のプリンターと接続する（66ページ）ときに使います。

▶ **メモリースティック**
“メモリースティック　デュオ”の画像を見る。

PictBridgeプリント
66ページをご覧ください。

表示ガイド

16ページをご覧ください。

ステータスチェック

以下の項目の設定値を確認できます。

– [コンポーネント出力]（54ページ）
– [i.LINK DV変換]（54ページ）
– [TVタイプ]（54ページ）
– [ビデオHDV/DV]（電源スイッチが「見る/編集」のとき）（51ページ）

ガイドフレーム

[入]にすると、フレームを表示して、被写体が水平・垂直になっているかを確認できます。
フレームは記録されません。画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、フレームを消せます。

- ガイドフレームの交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

カラーバー

「入」にするとカラーバーを表示したり、テープに記録することができます。接続したモニターの色を調整するときに便利です。

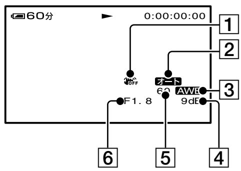
日時/カメラデータ表示

撮影時に自動的に記録された情報（日時/カメラデータ表示）を再生時に表示できます。

▶ **切**
日時/カメラデータ表示を表示しない。

日付時刻データ
日付、時刻を表示。

カメラデータ（下記）
カメラデータを表示。



1 手ぶれ補正*
2 明るさ調節*
3 ホワイトバランス*
4 ゲイン*
5 シャッタースピード
6 絞り値

* テープ再生時のみ

- “メモリースティック　デュオ”の静止画再生時は、露出補正値（0EV）とシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- フラッシュを使って撮影した画像は、⚡が表示されます。
- [日付時刻データ]のときは、同じエリアに日時が表示されます。日付、時刻を設定せずに撮影すると、[---- -- --]と[--:--:--]が表示されます。

メニューで設定を変更する

残量表示

▶**オート**
次のときにテープ残量を約8秒間表示する。
- カセットが入った状態で電源スイッチを「見る/編集」か「撮る－テープ」にしたとき
- ►II(再生/一時停止)をタッチしたとき

入
テープ残量を常に表示する。

リモコン

お買い上げ時の設定は［入］のため、付属のワイヤレスリモコン（30ページ）が使えます。

- ［切］に設定すると、他機のリモコンによる誤動作を防げます。

録画ランプ

［切］に設定すると、本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しないようにできます（お買い上げ時の設定は［入］）。

操作音

▶**入**
撮影スタート/ストップ時、タッチパネルでの操作時などにメロディが鳴る。

切
操作音を出さない。

画面表示出力

▶**パネル**
タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。

ビデオ出力/パネル
画面表示をテレビ画面、液晶画面、ファインダーに出す。

メニュー操作方向

▶**ノーマル**
▲をタッチするとメニュー項目が下に回転する。

逆方向
▲をタッチするとメニュー項目が上に回転する。

自動電源オフ

▶**5分後**
何も操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れる。

なし
自動的に電源は切れない。

- コンセントにつないで使うと自動的に［なし］になります。

キャリブレーション

103ページをご覧ください。

時間設定メニュー
（日時あわせ/時差補正）

操作方法は36ページをご覧ください。

日時あわせ

17ページをご覧ください。

時差補正

海外で使うときは、[－]/[＋]で時差を設定し、現地時刻に合わせる。
時差を0に設定すると元の設定に戻る。

パーソナルメニューを変更する

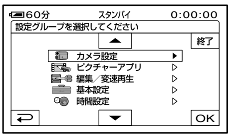
希望のメニュー項目を、電源スイッチの位置ごとに、パーソナルメニューに登録できます。よく使う項目を登録しておくと便利です。

項目を追加する

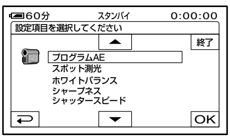
電源ランプの位置ごとに、最大28項目まで登録できます。登録数がいっぱいのときは、不要な項目を削除してください。

1 **P.メニュー → [P. メニュー設定] → [追加]をタッチ。**

画面にないときは、︽/︾をタッチして表示させる。



2 **▲/▼で設定項目を選び、OKをタッチ。**



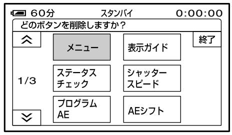
3 **▲/▼で項目を選び、OK → [はい] → ✕をタッチ。**

項目がパーソナルメニューの最後に追加される。

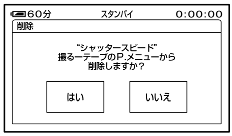
項目を削除する

1 **P.メニュー → [P. メニュー設定] → [削除]をタッチ。**

画面にないときは、︽/︾をタッチして表示させる。



2 **削除する項目をタッチ。**



3 **[はい] → ✕をタッチ。**

- [メニュー]と[P. メニュー設定]は削除できません。

表示位置を並べ替える

1 **P.メニュー → [P. メニュー設定] → [並べ替え]をタッチ。**

画面にないときは、︽/︾をタッチして表示させる。

2 **移動する項目をタッチ。**

3 [▲]/[▼]で項目を移動する。

4 [OK]をタッチ。

続けて並べ替えるときは手順**2** ～ **4**を行う。

5 [終了]→[×]をタッチ。

- [P.メニュー設定]は並べ替えられません。

お買い上げ時の設定に戻す（リセット）

[P.メニュー]→[P.メニュー設定]→[リセット]→[はい]→[はい]→[×]をタッチ。

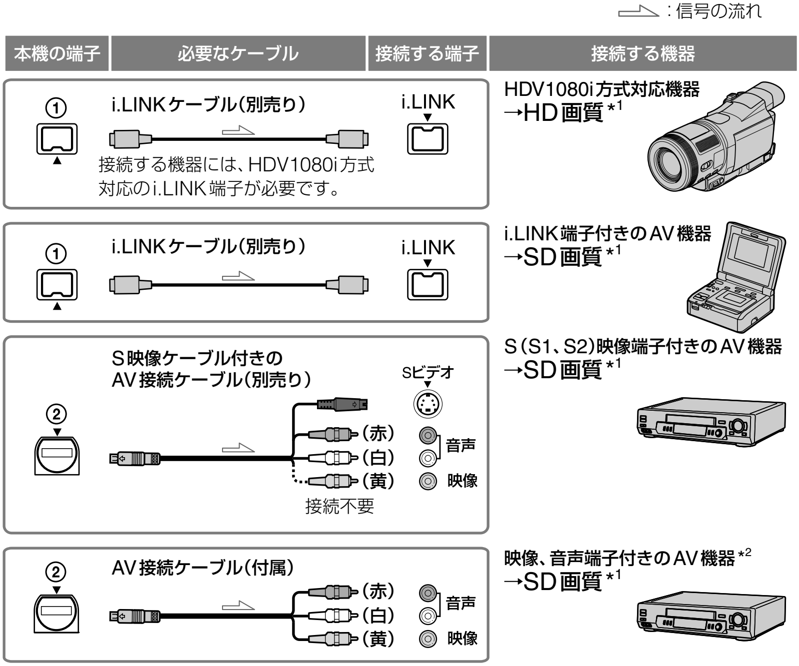
画面にないときは、[⌃]/[⌄]をタッチして表示させる。

他のビデオやDVD機器などにダビングする

電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（11ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

ビデオ機器の種類や接続する端子によって、接続方法や取り込まれる画質が異なります。

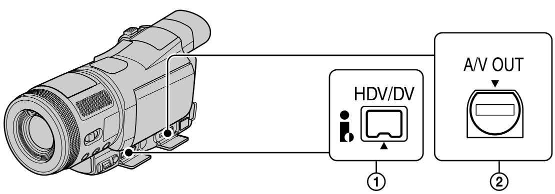


*1 DV規格で撮影した画像は、どの接続でもSD（標準）画質でダビングされます。

*2 モノラル（ひとつの音声入力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）を音声入力へつないでください。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。



i.LINKケーブル（別売り）でつなぐときは

ダビングされる画像の規格（HDVまたはDV）は、撮影した画像や相手機器が対応している規格によって異なります。下記の表でダビングしたい規格を選び、必要なメニュー設定を行ってください。

- メニュー設定を変える前に、i.LINKケーブル（別売り）を抜いてください。つないでから設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

ダビングしたい規格	本機で撮影した画像の規格	相手機器の対応規格		メニュー設定	
		HDV規格 *1	DV規格	[ビデオHDV/DV]（51ページ）	[i.LINK DV変換]（54ページ）
HDV画像をHDVでダビング	HDV	HDV	－ *3	[オート]	[切]
HDV画像をDVに変換してダビング	HDV	DV	DV	[オート]	[入]
DV画像をDVでダビング	DV	DV	DV	[オート]	[切]
HDV規格とDV規格が混在したテープのときは					
HDV、DVどちらもDVに変換してダビング	HDV/DV	DV	DV	[オート]	[入]
HDV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	HDV	－ *3	[HDV]	[切]
	DV	－ *2	－ *3		
DV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	－ *2	－ *2	[DV]	[切]
	DV	DV	DV		

*1 HDV1080i方式に対応している機器です。

*2 無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。

*3 画像を認識できません（無記録状態になります）。

- [ビデオ HDV/DV]が[オート]のときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- 録画側にHDR-HC1を使用する場合は、録画側も[ビデオ HDV/DV]を[オート]にしてください（51ページ）。
- 再生側と録画側の両方にHDR-HC1などのHDV1080i方式対応機器を使用して、i.LINKケーブル（別売り）で接続したときは、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。

S（S1、S2）端子つきのAV接続ケーブル（別売り）でつなぐときは

映像プラグ（黄色）のかわりにS（S1、S2）映像端子を接続してください。AV接続ケーブル（付属）での接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

ダビングする

1 本機（再生側）の準備をする。

撮影済みのカセットを入れる。
電源スイッチを「見る/編集」にする。

再生機器（テレビなど）に合わせて、［TVタイプ］を設定してください（54ページ）。

- AV接続ケーブル（付属）でつなぐときは、［画面表示出力］を［パネル］（お買い上げ時の設定）にしてください（56ページ）。

2 ビデオ（録画側）の準備をする。

ビデオは録画用カセット、DVDレコーダーは録画用DVDを入れる。

入力切り換えスイッチがある場合は「入力」（ビデオ1、ビデオ2入力など）にする。

3 本機とビデオをつなぐ。

接続について詳しくは、60ページをご覧ください。

4 本機で再生を始め、ビデオで録画する。

詳しくは、ビデオ機器の取扱説明書をご覧ください。

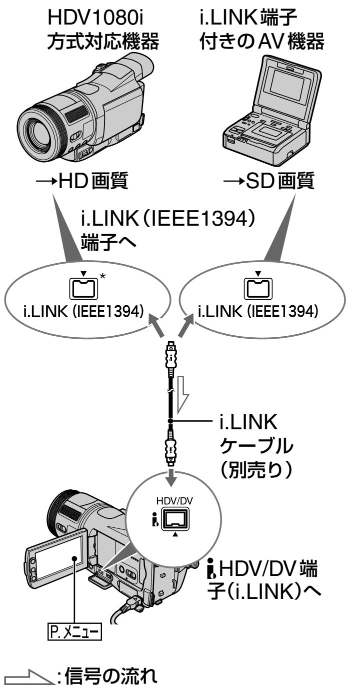
5 ダビングが終わったら、ビデオの録画を停止し、本機の再生を停止する。

- i HDV/DV端子（i.LINK）接続では、以下は録画されません。
  – 画面表示
  – ［ピクチャーエフェクト］（48ページ）/［デジタルエフェクト］（48ページ）を加えた画像
  – 他機で付けたタイトル
- AV接続ケーブルでつないで日付などの日時/カメラデータ表示をダビングしたいときは、日時/カメラデータ表示を表示させてください（55ページ）。
- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像は i HDV/DV端子（i.LINK）から出力されません。
- i.LINKケーブル（別売り）接続時は、以下にご注意ください。
  – 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  – ご使用する機器やアプリケーションなどによっては日時/カメラデータ表示が表示、記録されないことがあります。
  – 映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブル（別売り）で接続してDV規格でダビングするとき、DVDレコーダー側から本機の操作が可能と説明されている機器でも、操作ができない場合があります。
  DVDレコーダーの入力モードを「DV」に切り換えるなどして映像の入出力が可能なときは、「ダビングする」の手順でダビングしてください。
- ソニー製DVDレコーダーとのi.LINKケーブル接続について詳しくは、下記のURLをご覧ください（2005年8月現在）。
  http://www.sony.jp/products/i-link/
- i.LINKケーブル（別売り）接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。
- i.LINKケーブル（別売り）接続時は、出力される信号の規格（HDVOUT i.LINKまたはDVOUT i.LINK）が本機の液晶画面に表示されます。

ビデオの画像を本機で録画する i.LINK

ビデオの画像を本機のテープに録画できます。
"メモリースティック　デュオ"には静止画として記録できます。
あらかじめ、本機に録画用テープまたは"メモリースティック　デュオ"を入れておいてください。

- この操作にはi.LINKケーブル(別売り)が必要です。HDV/DV端子(i.LINK)以外からの録画はできません。



* HDV1080i方式のi.LINK端子が必要です。

動画を録画する

1 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 本機の入力信号を設定する。

HDV対応機器から録画するときには[ビデオHDV/DV]を[オート]にする。DV対応機器から録画するときには[ビデオHDV/DV]を[DV]または[オート]にする(51ページ)。

3 ビデオを再生機としてつなぐ。

- i.LINKケーブル(別売り)接続時は、入力される信号の規格(HDVIN i.LINKまたはDVIN i.LINK)が本機の液晶画面に表示されます。(再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません。)

4 ビデオにダビングするカセットを入れる。

5 本機で録画操作する。

P. メニュー → [録画操作] → [録画ポーズ]をタッチ。

6 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

7 録画を開始したい画面で[録画スタート]をタッチ。

8 録画を止める。

テープに取り込むときは、■(停止)または[録画ポーズ]をタッチ。

9 ↩ → ✕ をタッチ。

- テレビ放送などの番組をHDV/DV端子(i.LINK)から録画することはできません。
- DV機器から画像を録画するとき、HDV規格で

次のページへつづく ➡

録画することはできません。

- 接続時は、以下にご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
  - 録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
- 4：3の映像信号を入力すると、本機の画面には左右が黒く表示されます。

静止画を記録する

1 「動画を録画する」の手順1～4を行う。

2 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の液晶画面に映ります。

3 記録したい場面でフォトボタンを軽く押し、画像を確認したら深く押す。

テープの画像を“メモリースティック　デュオ”に取り込む

静止画を“メモリースティック　デュオ”に記録できます。あらかじめ録画済みのテープと“メモリースティック　デュオ”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 場面を探して、取り込む。

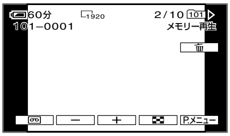
[▶ II]（再生）をタッチしてテープを再生し、取り込む場面でフォトボタンを軽く押し、画面を確認して深く押す。

- “メモリースティック　デュオ”に取り込んだときの日時は記録されますが、テープに記録された日時/カメラデータ表示は記録できません。
- 再生している画像がHDV規格のとき、画像サイズは1440×810になります。再生している画像がDV規格でワイドのとき、画像サイズは640×360に、4：3のときは640×480になります。

“メモリースティック　デュオ”の画像を消す

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 [メモリー]をタッチ。



3 [－]/[＋]で削除する画像を表示させる。

- すべての画像を消去するには、メニューの［全消去］（46ページ）で削除します。

4 [🗑]→[はい]をタッチ。

- いったん削除した画像は元に戻せません。

- インデックス表示画面（21ページ）で、[設定]→［🗑 削除］→削除する画像→[OK]→［はい］をタッチしても画像を削除できます。6枚ずつ画像を一覧できるので、消す画像を簡単に探せます。
- “メモリースティック　デュオ”が誤消去防止になっているとき（98ページ）やプロテクトされている画像（65ページ）は削除できません。

“メモリースティック　デュオ”の画像にマークをつける
（プロテクト/プリントマーク）

誤消去防止スイッチ付きの“メモリースティック　デュオ”のときは、あらかじめ誤消去防止を解除してください（98ページ）。

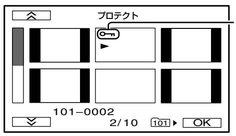
記録した画像を保護する（プロテクト）

画像に誤消去防止（プロテクト）指定できます。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 [メモリー]→[▦]→[設定]→[プロテクト]をタッチ。

3 プロテクトする画像をタッチ。



○━が表示

4 [OK]→[終了]をタッチ。

- プロテクトを外すには、手順**3**で外す画像をもう1度タッチ。

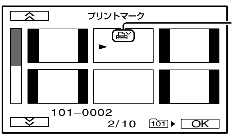
静止画にプリント用のマークを付ける(プリントマーク)

本機はプリントする画像を選択できるDPOF(Digital Print Order Format)規格に対応のため、マークを付けると、プリント時に選び直す必要がありません(プリント枚数は指定できません)。

1 電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 メモリー → ▦ → 設定 → [プリントマーク]をタッチ。

3 プリントマークを付ける画像をタッチ。



が表示

4 OK → [終了]をタッチ。

- プリントマークを外すには、手順**3**で、外す画像をもう1度タッチ。
- 他機でプリントマークを付けた画像が"メモリースティック　デュオ"に入っているときに本機でプリントマークを付けると、他機でプリントマークをつけた画像の情報が変更される場合があります。

記録した画像を印刷する
(PictBridge対応プリンター)

PictBridge対応のプリンターを使えば、本機で撮影した静止画をパソコン無しで印刷できます。

PictBridge

本機と付属のACアダプターを接続し、電源はコンセントから取ってください。
あらかじめ、本機に静止画を記録した"メモリースティック　デュオ"を入れて、プリンターの電源を入れてください。

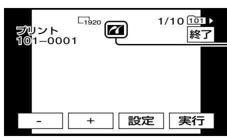
本機とプリンターを接続する

1 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

2 P.メニュー →[メニュー]→ 基本設定→[USB機能選択]→[PictBridgeプリント]→ OK → ↩ をタッチ。

3 USBケーブル(付属)で本機の ψ(USB)端子とプリンターをつなぐ。

4 ピクチャーアプリ→[PictBridgeプリント]をタッチ。



本機とプリンターの接続が完了すると画面に(PictBridge接続中)が表示される。

"メモリースティック　デュオ"に記録されている画像が表示される。

- PictBridge規格未対応機器との接続は、動作

保証いたしません。

印刷する

1 [－]/[＋]で印刷する画像を選ぶ。

2 [設定]→[印刷部数]をタッチ。

3 [－]/[＋]で印刷部数を設定する。

1枚の静止画で最大20枚まで印刷部数を設定できる。

4 [OK]→[終了]をタッチ。

日付を入れて印刷するには、[設定]→[日付/時刻]→[年月日]または[日時分]→[OK]をタッチ。

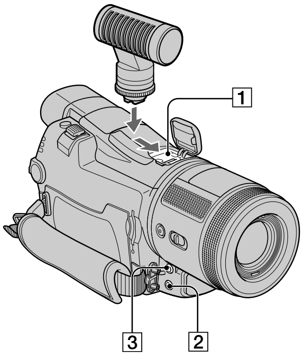
5 [実行]→[はい]をタッチ。

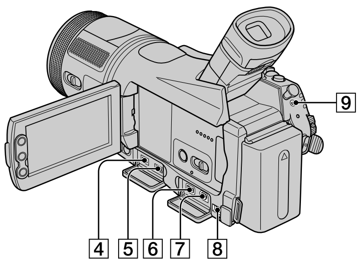
印刷が完了すると[プリント中です]の表示が消え、画像選択画面に戻る。

印刷終了後、[終了]をタッチ。

- プリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 画面に⊠が表示中に以下の操作をすると、正常な処理が行われません。
  – 電源スイッチを切り換える。
  – プリンターからUSBケーブルを抜く。
  – 本機から"メモリースティック　デュオ"を抜く。
- プリンターが動作しなくなった場合は、USBケーブルを抜いてプリンターの電源を入れ直してから、操作をやり直してください。
- ワイドの静止画を印刷すると、画像の左右が切れる場合があります。
- プリンターによっては、日付印刷に対応していないものがあります。プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機以外の機器で撮影した画像の印刷に関しては保証いたしません。
- PictBridge（ピクトブリッジ）とは、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。メーカーや機種に関係なく、ビデオカメラやデジタルスチルカメラを直接プリンターに接続し、パソコンを使わずに画像を印刷できます。

外部機器をつなぐ端子について





1…シューカバーを開ける
2 ～ 9…端子カバーを開ける

1 アクティブインターフェースシュー

Active Interface Shoe
専用マイクやフラッシュなどを使用時、本機から電源供給し、本機の電源スイッチに連動して、接続機器の電源入/切ができます。お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。

- 外部機器を接続するときは、シューカバーを外してください。
- 接続機器が外れにくい構造になっています。取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、ネジを確実に締め付けてください。取り外すときは、ネジをゆるめ、上から押しながら外してください。
- 外部機器と接続すると、バッテリーの消耗は早くなります。
- 別売りのフラッシュと内蔵フラッシュは同時に使えません。
- 外部マイク（別売り）を接続すると、内蔵ステレオマイク（25ページ）より優先されます。

2 ∩（ヘッドホン）端子（緑色）

- ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

3 MIC（マイク）端子（赤色）

- MIC（PLUG IN POWER）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。外部マイク（別売り）を接続すると、内蔵ステレオマイク（25ページ）より優先されます。
- 外部マイクの固定には、別売りのアクセサリーシューアダプター VCT-55Lの使用をおすすめします。テープを出し入れするときには、アクセサリーシューアダプターを外してください。

4 i HDV/DV端子（i.LINK）（60、74ページ）

5 ψ（USB）端子（66、69ページ）

6 COMPONENT OUT端子（コンポーネント出力）（32ページ）

7 A/V OUT端子（出力のみ対応）（32、60ページ）

8 DC IN端子（11ページ）

9 LANC端子（青色）

- ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできます。

パソコンと接続する

本機とパソコンを接続して、以下の操作を行うことができます。

"メモリースティック　デュオ"の静止画を取り込む
→69ページ

テープの動画をHDV規格で取り込む
→72ページ

テープの動画をDV規格で取り込む
→72ページ

接続について

本機とパソコンをつなぐには、以下の2つの方法があります。

– USBケーブル（付属）でつなぐ
"メモリースティック　デュオ"の画像を取り込むとき

– i.LINKケーブル（別売り）でつなぐ
テープの画像を取り込むとき

パソコン接続時のご注意

- USBケーブル（付属）やi.LINKケーブル（別売り）などで本機とパソコンを接続する場合、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- 以下の操作はできません。
  – USBケーブル（付属）で接続してテープの画像をパソコンに取り込む。
  – i.LINKケーブル（別売り）で接続して"メモリースティック　デュオ"の画像をパソコンに取り込む。
- USBケーブル（付属）をパソコンから外すときは、正しい手順で操作してください（71ページ）。

静止画をパソコンに取り込む

推奨パソコン環境について

Windowsをお使いの場合

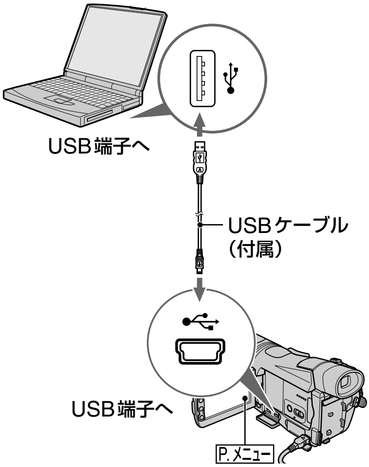
- 対応OS：Windows 2000 Professional/Windows Millennium Edition/Windows XP Home Edition/Windows XP Professional
  上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。
  上記のOS内でもアップグレードした場合は動作保証いたしません。
- CPU：MMX Pentium 200MHz以上
- その他必要な装置：USB端子標準装備

Macintoshをお使いの場合

- 対応OS：Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X（v10.1/v10.2/v10.3）
- その他必要な装置：USB端子標準装備

USBケーブル（付属）でつなぐ

- パソコンの標準ドライバで動作するので、ソフトウェアのインストールは不要です。
- パソコンにメモリースティック　スロットがある場合は、画像を保存した"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプター（付属）に入れてから、パソコンのメモリースティック　スロットに差し込んで画像を取り込むこともできます。
- "メモリースティック PRO デュオ"をお使いの際にパソコンが"メモリースティック PRO デュオ"に対応していない場合は、パソコンのメモリースティック　スロットを使用せずに本機をUSBケーブル（付属）でつないでください。



- この段階では、まだ本機とパソコンをつながないでください。
- 本機の電源を入れる前に、本機とパソコンをUSBケーブル(付属)でつなぐと、本機がパソコンに認識されない場合があります。
- 推奨するつなぎかたについては72ページをご覧ください。

1 パソコンの電源を入れる。

使用中のアプリケーションは、終了させておいてください。

Windows 2000/ Windows XPをお使いの場合

Administrator権限・コンピューターの管理者でログオンしてください。

2 本機に"メモリースティックデュオ"を入れる。

3 本機の電源を準備する。

電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください(11ページ)。

4 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

5 本機の液晶画面で[P.メニュー]→[メニュー]→ 基本設定→[USB機能選択]→[メモリースティック]→[OK]をタッチ。

6 本機のUSB端子にUSBケーブル(付属)をつなぐ。

7 パソコンのUSB端子にUSBケーブル(付属)のもう片方をつなぐ。

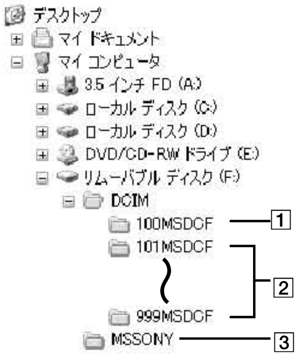
本機の液晶画面に[USB接続]が表示されます。

初回は、パソコンが本機を認識するのに時間がかかることがあります。

画像を取り込む

Windowsパソコンのとき

[マイコンピュータ]内に表示される[リムーバブルディスク]アイコンをダブルクリックし、フォルダ内の画像をパソコンのハードディスクへコピーする。



1 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した静止画が入っているフォルダ（再生のみ可能）

2 本機の画像フォルダ（新しくフォルダを作成していない場合は［101MSDCF］のみ）

3 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した動画が入っているフォルダ

フォルダ名	ファイル名	意味
101MSDCF (~999MSDCF)	DSC0□□ □□.JPG	静止画 ファイル

ファイル名の□□□□には、0001 ～ 9999までの数字が入ります。

Macintoshパソコンのとき

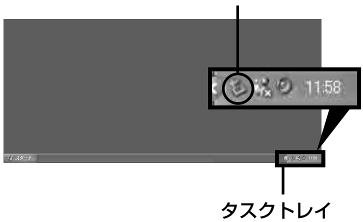
ドライブアイコンをダブルクリックし、取り込みたい画像ファイルをパソコンのハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。

USBケーブルをはずす

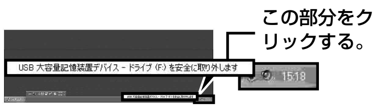
Windowsパソコンのとき

本機の液晶画面に［USB接続］と表示されたときは、次のようにUSBケーブルを外してください。

① 画面右下のあるタスクトレイの中の、［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをクリックする。



② ［USB大容量記憶装置デバイス - ドライブを安全に取り外します（停止します）］をクリックする。



③ ［OK］をクリックする。

④ 本機とパソコンからUSBケーブルをはずす。

本機の液晶画面に［USB接続］と表示されていないときは、手順4のみ行ってください。

- 正しい手順でUSBケーブルを外さないと、"メモリースティック　デュオ"内のファイルが正常に更新されない場合があります。また"メモリースティック　デュオ"の故障の原因になります。

Macintoshパソコンのとき

① パソコンで使用中のアプリケーションを終了させる。

② パソコンの画面にあるドライブアイコン

次のページへつづく ➡

を［ゴミ箱］にドラッグ＆ドロップする。

③ 本機とパソコンからUSBケーブル（付属）を外す。

- Mac OS Xをお使いの場合は、パソコンの電源を切ってから、USBケーブル（付属）をはずし、本機から"メモリースティック　デュオ"を取り出してください。
- 本機のアクセスランプが点灯中はUSBケーブル（付属）を抜かないでください。
- 本機の電源を切るときは、本機からUSBケーブル（付属）を外してから切ってください。

推奨するつなぎかた

本機を正しく動作させるためには、次のようにつないでください。

- パソコンのUSB端子に、USBケーブル（付属）で本機をつなぎ、他のUSB端子には何もつながない。
- USBキーボードとマウスが標準でついているパソコンの場合、キーボードをUSB端子につないだ状態で、本機をUSBケーブル（付属）で別のUSB端子につなぐ。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器をつないだ場合の動作は保証していません。
- USBケーブル（付属）は、必ずパソコンのUSB端子につないでください。キーボードやUSBハブなどを経由してつないでいる場合の動作は保証していません。
- パソコンのUSB端子にUSBケーブル（付属）がつながれていることを確認してください。
- 推奨環境のすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

テープの動画をパソコンに取り込む

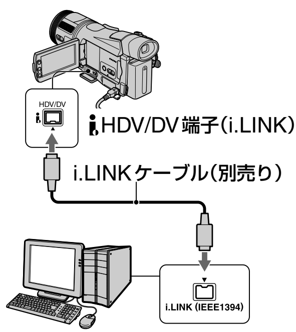
i.LINKケーブル（別売り）で本機とパソコンをつなぎます。
お手持ちのパソコンにi.LINK端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトがインストールされている必要があります。撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格（HDVまたはDV）によって、必要なソフトウェアが以下の通り異なります。

パソコンに取り込まれる規格	撮影画像の規格	必要なソフトウェア
HDV	HDV	HDV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
DV	HDV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
DV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト

- 画像の取り込み方法について詳しくは、ソフトウェアの説明書をご覧ください。
- パソコンの推奨環境については、お使いになるソフトウェアの説明書をご覧ください。
- 使用するパソコンのソフトウェアによっては、正しく働かない場合があります。

パソコン接続について

詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/



パソコン接続時のご注意

- i.LINKケーブル（別売り）は先にパソコンとつないでから、本機とつないでください。先に本機とつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- 以下の場合、パソコンが本機を正しく認識できなかったり、パソコンがハングアップしたりすることがあります。
  - 本機の画面上に表示されている規格（HDVまたはDV）の信号が扱えないパソコンに入出力する。
  - i.LINKケーブル（別売り）接続中に、基本設定メニューの[ビデオ HDV/DV]と[i.LINK DV変換]の設定を変える。
  - 電源スイッチが「撮る－テープ」でi.LINKケーブル（別売り）接続中に、基本設定メニューの[録画フォーマット]の設定を変える。
  - i.LINKケーブル（別売り）接続中に、本機の電源スイッチを切り換える。
- i.LINKケーブル（別売り）接続時は、本機の画面に入出力信号の規格（HDVまたはDV）が表示されます。

本機の設定をするときは

撮影画像やパソコンに取り込まれる規格によって、必要なメニュー設定が異なります。

パソコンに取り込まれる規格	メニュー設定 *1	撮影画像の規格
HDV	[ビデオHDV/DV]→[HDV] [i.LINK DV変換]→[切]	HDV
DV	[ビデオHDV/DV]→[HDV] [i.LINK DV変換]→[入]	HDV
DV	[ビデオHDV/DV]→[DV] [i.LINK DV変換]→[切]	DV

*1 メニュー設定について、[ビデオ HDV/DV]は51ページ、[i.LINK DV変換]は54ページをご覧ください。

- DV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むことはできません。
- 本機を「Click to DVD Ver.2.3」以降がインストールされているソニーパーソナルコンピューター VAIOシリーズとつなぐと、テープの画像からDVDを作成することができます（74ページ）。DVDに取り込まれる画像はSD（標準）画質になります。

パソコンから本機にHDV規格で取り込むときは

基本設定メニューの[ビデオHDV/DV]を[HDV]に、[i.LINK DV変換]を[切]にする（51、54ページ）。

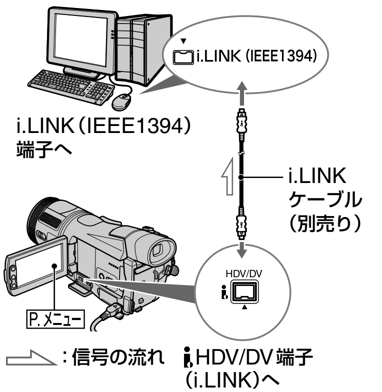
パソコンから本機にDV規格で取り込むときは

基本設定メニューの[ビデオHDV/DV]を[DV]にする（51ページ）。

DVDを作る（おまかせ「Click to DVD」） i.LINK

あらかじめ「Click to DVD」がインストールされているソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズ*にi.LINKケーブル（別売り）で本機をつなぐと、テープの画像からDVDを作成することができます。画像の取り込みからDVDへの書き込みまで、すべて自動で行います。
ここでは、テープ1本をそのままDVDに取り込む手順を説明します。
使用できるパソコン、動作環境や「Click to DVD」や「Click to DVD Ver.2.3」以降へのアップグレードについて、詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://vcl.vaio.sony.co.jp/

* パソコンのDVDドライブがDVDに書き込み対応で、ソニーオリジナルソフトウェア「Click to DVD Ver.2.3」以降がインストールされている必要があります。



- DVDに取り込まれるHDV規格の画像は、ダウンコンバートされてSD（標準）画質になります（HD（ハイビジョン）画質ではありません）。
- この機能はi.LINKケーブル（別売り）で接続した場合のみ使えます。USBケーブルは使えません。

おまかせ「Click to DVD」機能を初めて使うときは

おまかせ「Click to DVD」機能を使うと、本機をパソコンに接続すれば、簡単な操作でDVDを作成できます。この機能を使うときは、あらかじめパソコンの「Click to DVD おまかせサーバー」を起動する必要があります。

① パソコンの電源を入れる。
② スタートメニューをクリックし、［すべてのプログラム］を選ぶ。
③ 表示されたプログラムの中から［Click to DVD］を選び、「Click to DVD おまかせサーバー」をクリックする。
　「Click to DVD おまかせサーバー」が起動します。

- 「Click to DVD おまかせサーバー」は、1度起動すると、2回目以降はパソコンの電源を入れるだけで自動的に起動します。
- 「Click to DVD おまかせサーバー」は、Windows XPのユーザーごとに起動の設定がされます。

1 パソコンの電源を入れる。

i.LINKを使うアプリケーションが起動しているときは、終了しておいてください。

2 本機の電源を準備する。

DVDの作成には時間がかかるので、付属のACアダプターを使ってください。

3 本機の電源スイッチを「見る/編集」にする。

4 本機の液晶画面でP.メニュー→［メニュー］→基本設定→［i.LINK DV変換］→［入］→OKをタッチ。

5 録画済みのカセットを入れる。

6 i.LINKケーブル（別売り）で、本機

とパソコンをつなぐ(74ページ)。

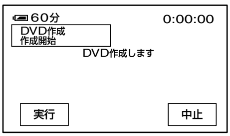
- 接続するときは、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

7 **本機の液晶画面で P.メニュー →[メニュー]→ 編集/変速再生→[DVD作成]→ OK をタッチ。**

パソコンに「Click to DVD」画面が表示されます。

8 **パソコンのディスクドライブに書き込み用DVDをセットする。**

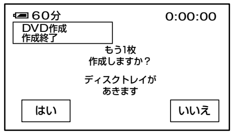
9 **本機の液晶画面で[実行]をタッチ。**



パソコンの作業状況が本機画面に表示されます。
取り込み : 本機からテープの画像を取り込む。
変換 : 取り込んだ画像をMPEG2方式に変換する。
書き込み : 変換されたテープの画像をDVDに書き込む。

- すでに書き込まれているDVD-RW/+RWを使うと、[書き込み済みディスクです記録されているデータは消去されます]が表示されます。[実行]をタッチすると書き込み済みのデータは消去され、新しいデータを書き込みます。

10 **DVD作成を終了するには、本機の液晶画面で[いいえ]をタッチ。**



パソコンのディスクトレイが自動的に開きます。
同じ内容のDVDをもう1枚作成するときは、[はい]をタッチします。ディスクトレイが自動的に開きます。新しい書き込み用DVDをディスクドライブにセットして手順**9**、**10**を行ってください。

DVD作成を途中でやめるには

本機の液晶画面で[中止]をタッチ。

- 本機画面に[終了処理中です]と表示されているときはDVD作成を中止できません。
- 画像を取り込むまで、i.LINKケーブル(別売り)を抜いたり、本機の電源スイッチを切り換えたりしないでください。
- 本機画面に[変換]、[書き込み]が表示されているときはすでに画像の取り込みは終了しています。i.LINKケーブル(別売り)を抜いたり、本機の電源を切っても、パソコンはDVD作成を続けます。
- 次のときはパソコンは画像の取り込みを中止し、その時点までのDVDを作成します。詳しくは「Click to DVDおまかせコース」のヘルプをご覧ください。
  – テープの途中に10秒以上の無記録部分がある
  – テープの日付データが先の画像よりも前の日付になっている
  – ワイドと4:3の画像が混在している
- 次のときは、本機を操作することはできません。
  – テープ走行中
  – "メモリースティック　デュオ"に画像を記録中
  – パソコンから「Click to DVD」を起動させたとき

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、
テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

全体操作について

電源が入らない。

- バッテリーの消耗または消耗間近、未装着。
- 充電されたバッテリーを取り付ける（11ページ）。
- ACアダプターをコンセントに差し込む（11ページ）。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源（バッテリーまたはACアダプターの電源コード）を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。それでも操作できないときは、RESET（リセット）ボタン（25ページ）を先のとがったもので押す。（パーソナルメニュー項目以外のすべての設定が解除される。）

デモモードに切り換わらない。

- カセットと"メモリースティック　デュオ"を取り出す（18、19ページ）。

本体があたたかくなる。

- 本機使用中に本体があたたかくなることがありますが、故障ではありません。

バッテリー/電源について

電源が途中で切れる。

- お買い上げ時の設定では、操作しない状態が約5分以上続くと、自動的に電源が切れる（自動電源オフ）。[自動電源オフ]の設定を変更する（56ページ）か、もう1度電源を入れる（14ページ）、またはACアダプターを使用する。
- バッテリーを充電する（11ページ）。

バッテリーの充電中、充電ランプが点灯しない。

- 電源スイッチを「切（充電）」にする（11ページ）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（11ページ）。
- コンセントから電源が供給されていない（11ページ）。
- すでに充電が完了している（11ページ）。

バッテリーの充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーを正しく取り付け直す（11ページ）。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。

- 残量表示にズレが生じている、または充電が不充分。満充電し直すと残量が正しく表示される（11ページ）。

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（11、100ページ）。
- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。液晶画面を開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（11、100ページ）。

ACアダプターを使用中、本機に不具合が生じる。

- 電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから、もう1度電源をつなぐ。

液晶画面/ファインダーについて

液晶画面またはファインダーに見慣れない画面が現れる。

- [デモモード]になっている（50ページ）。液晶画面のどこかを押す、またはカセットや"メモリースティック　デュオ"を入れる。

見慣れない表示が出る。

- 警告表示またはお知らせメッセージです。91ページをご覧ください。

液晶画面に画像が残る。

- 電源を入れた状態でバッテリーを外したり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

タッチパネルのボタンが表示されない。

- 液晶画面を軽くタッチする。
- 画面表示/バッテリーインフォボタン（またはリモコンの画面表示ボタン）を押す（16ページ）。

タッチパネルのボタンが操作できない/正しく操作できない。

- 画面を調節（[キャリブレーション]）する（103ページ）。

次のページへつづく ➡

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度調整つまみを動かす（15ページ）。

ファインダーの画像が消えている。

- 液晶画面が開いているとファインダーには画像は映りません（15ページ）。

カセットについて

カセットが取り出せない。

- 電源（バッテリーやACアダプター）が正しく接続されているか確認する（11ページ）。
- バッテリーを外して、もう1度取り付ける（11ページ）。
- 充電されたバッテリーを取り付ける（11ページ）。

カセットカバーを開けてもテープが出てこない。

- 本機が結露しかけている（102ページ）。

カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。

- 本機は、カセットメモリーに対応していないため、表示されません。

テープ残量表示が出ない。

- 常に表示させたいときは、[残量表示]を[入]にする（56ページ）。

テープの巻き戻し、早送り時の音が大きい。

- ACアダプター使用時は、バッテリー使用時より高速になるため音が大きくなります。

“メモリースティック　デュオ”について

操作を受け付けない。

- 電源スイッチを「撮る－メモリー」または「見る/編集」にする（14ページ）。
- “メモリースティック　デュオ”を入れる（18ページ）。
- パソコンでフォーマットした“メモリースティック　デュオ”を入れている場合は、本機でフォーマットする（46ページ）。

“メモリースティック　デュオ”の画像を消去できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（98ページ）。
- プロテクトを解除する（65ページ）。
- インデックス表示で1度に消せる画像は100枚まで。

“メモリースティック　デュオ”の画像を全消去できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（98ページ）。
- プロテクトを解除する（65ページ）。

“メモリースティック　デュオ”をフォーマットできない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（98ページ）。

プロテクトが実行できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（98ページ）。
- インデックス表示にしてから、プロテクトを実行し直す（65ページ）。

プリントマークが実行できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（98ページ）。
- インデックス表示にしてから、プリントマークを実行し直す（66ページ）。
- プリントマークは1000枚以上付けられません。

データファイル名が正しくない。

- ディレクトリー構造が規格に準拠しないと、ファイル名のみ表示されることがある。
- ファイルが壊れている。ソニー製“メモリースティック　デュオ”をお使いのときは、下記のホームページをご覧ください。
  メモリースティック　データ復旧サービス
  http://www.sony.co.jp/Products/mssupport/datarescue/jp.html
- 本機で対応していないファイル形式を使っている（98ページ）。

データファイル名が点滅している。

- ファイルが壊れている。ソニー製“メモリースティック　デュオ”をお使いのときは、下記のホームページをご覧ください。
  メモリースティック　データ復旧サービス
  http://www.sony.co.jp/Products/mssupport/datarescue/jp.html
- 本機で対応していないファイル形式を使っている（98ページ）。

撮影について

「撮影時の画像調節について」（81ページ）、「“メモリースティック　デュオ”について」（78ページ）もご覧ください。

次のページへつづく ➡

録画スタート/ストップボタンを押しても、テープが走行しない。

- 電源スイッチを「撮る－テープ」にする(20ページ)。
- テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。
- カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる(96ページ)。
- 結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してから入れ直す(102ページ)。

ズームができない。

- [ショットトランジション]実行中はズーム操作ができません。

"メモリースティック　デュオ"に撮影できない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック　デュオ"は、誤消去防止を解除する(98ページ)。
- メモリー容量いっぱいの場合は、不要な画像を消す(65ページ)。
- 本機で"メモリースティック　デュオ"をフォーマットし直すか(46ページ)、別の"メモリースティック　デュオ"を入れる。
- 本機では"メモリースティック　デュオ"に動画を記録することはできません。
- 電源スイッチが「撮る-テープ」で、次の設定のときは"メモリースティック　デュオ"に静止画を記録することはできません。
  –[ピクチャーエフェクト]
  –[デジタルエフェクト]
  –[COLOR SLOW S]
  –[SUPER NS]
  –[シャッタースピード]が1/30以下のとき
  –[フェーダー]実行中
  –[カラーバー]

電源スイッチの位置により画角が異なる。

- 「撮る－メモリー」のときの画角は「撮る－テープ」のときより広くなります。

テープできれいにつなぎ撮りできない。

- テープできれいにつないで撮影するには、次の点に気をつける。
  –エンドサーチする(29ページ)。
  –カセットを取り出さない(電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます)。
  –同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させない。
  –同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。DV
  –LPモードでつなぎ撮りしない。DV

静止画撮影時にシャッター音が出ない。

- [操作音]を[入]にする(56ページ)。

フラッシュが発光しない。

- 次の設定のとき、フラッシュ撮影はできません。
  - 連写
  - 電源スイッチが「撮る－テープ」のとき
  - 別売りのマイク（ECM-HST1またはECM-HQP1）を取り付けているとき
- 自動調節や⊙（自動赤目軽減）にしていても、次の設定のときフラッシュは自動発光しません。
  - [プログラムAE]の[スポットライト]、[サンセット＆ムーン]または[風景]
  - [スポット測光]

別売りのフラッシュが発光しない。

- フラッシュの電源が入っていない。または、正しく取り付けられていない。
- 電源スイッチが「撮る－テープ」のときは発光しません。

エンドサーチができない。

- 撮影後にカセットを取り出したため（29ページ）。
- カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1回も撮影していない。

エンドサーチが誤動作する。

- テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

撮影時の画像調節について

「メニュー操作について」（85ページ）もご覧ください。

カメラ明るさを手動で調節できない。

- 次の設定のとき、手動で明るさを調節できません。
  - NightShot
  - [COLOR SLOW S]
  - [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
  - [カラーバー]
  - オートロックスイッチが「入」のとき（23ページ）
- [プログラムAE]を設定するとカメラ明るさは解除されます。

テレマクロができない。

- 次の設定のとき、テレマクロはできません。
  - [プログラムAE]
  - テープに動画を録画中

オートフォーカスができない。

- フォーカス/ズームスイッチを「自動」にして、オートフォーカスにする（23ページ）。

次のページへつづく ➡

- オートフォーカスが働きにくい状態のときは、手動でピントを合わせる(23ページ)。

フォーカスができない。

- [ショットトランジション]実行中はできません。

手ぶれ補正ができない。

- [手ぶれ補正]を[入]にする(44ページ)。
- [ショットトランジション]中は手ぶれ補正がききません(49ページ)。

逆光補正ができない。

- [スポット測光] (40ページ)を設定すると、逆光補正は解除されます。
- カメラ明るさがオート以外のとき、逆光補正は働きません。

[デジタルズーム]ができない。

- 以下のとき、[デジタルズーム]は働きません。
  – テレマクロ
  – [ショットトランジション]登録中

画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。

- [SUPER NS]、[COLOR SLOW S]のときに出る現象で、故障ではありません。

画面を横切る被写体が曲がって見える。

- フォーカルプレーンと呼ばれる現象で、故障ではありません。撮像素子(CMOSセンサー)の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、非常に速く画面を横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

画像の色が正しくない。

- NightShotを解除する(22ページ)。

画面が暗すぎて画像が見えない。

- 画面表示/バッテリーインフォボタンを数秒間押したままにして、バックライトを点灯する(15ページ)。

画像が明るくなる、横帯が現れる、色が変化する。

- 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯など放電管による照明下ではこのような症状が現れることがありますが、故障ではありません。[プログラムAE] (40ページ)を解除すると症状が軽減されます。

テレビやパソコンの画面を撮影すると黒い帯が出る。

- [手ぶれ補正]を[切]にする(44ページ)。

画面に白点が出ることがある。

- シャッタースピードを遅くしたときに出る現象で、故障ではありません。

画面が白すぎて画像が見えない。

- 逆光補正を解除する(23ページ)。

再生について

「"メモリースティック　デュオ"について」(78ページ)もご覧ください。

テープ再生ができない。

- 電源スイッチを「見る/編集」にする。
- テープを巻き戻す(21ページ)。

逆方向に変速再生ができない。

- HDV規格で記録したテープではできません。

"メモリースティック　デュオ"が正しい画像サイズや比率で再生できない。

- 他機で撮影した画像は、正しい画像サイズで表示されないことがあります。故障ではありません。

"メモリースティック　デュオ"の画像データが再生できない。

- 他機で"メモリースティック　デュオ"に記録した動画を本機で見ることはできません。
- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります(ファイル名が点滅)。故障ではありません(99ページ)。
- 他機で撮影した画像は、再生できないことがあります。故障ではありません(99ページ)。

画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。

- ビデオヘッドが汚れているので、別売りのクリーニングカセットできれいにする(103ページ)。

他機で4CHマイク記録した音声が聞こえない。DV

- [P 音声ミックス]を調整する(52ページ)。

細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。

- [シャープネス]で[−]側に調整する(41ページ)。

音声が小さい。または聞こえない。

- [バイリンガル]を[切]にする(53ページ)。
- 音量を大きくする(21ページ)。

困ったときは

次のページへつづく ➡

- [音声ミックス]を[ST2]側（アフレコ音声）から最適な音声になるまで調節する（52ページ）。
- S映像プラグまたはD端子コンポーネントビデオケーブル（付属）だけでつないでいるため。AV接続ケーブル（付属）の白と赤のプラグもあわせてつなぐ（32ページ）。

画像や音声が途切れる。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

画像が一瞬静止画になる、音声が途切れる。

- テープやビデオヘッドに付着物があるときに起こる症状です（103ページ）。
- ソニー製のミニDVカセットを使用する。

[－ － －]が表示される。

- 日付時刻を設定しないで録画したテープを再生している。
- テープの無記録部分を再生している。
- テープに傷やノイズがあると、データコードを読めません。

ノイズが現れ、画面上にPALまたは50iと表示される。

- テープに記録されているTVカラーシステムがPALなど、本機のカラーシステム（NTSC）と違うため（95ページ）。故障ではありません。

日付サーチが正しく操作できない。

- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの始めや途中に無記録部分があると、日付サーチが正しく働かないことがあります。故障ではありません。

エンドサーチ、レックレビューのときに画像が出ない。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

i.LINKケーブル（別売り）でテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- テレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、HD（ハイビジョン）画質で見ることはできません（32ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

D端子コンポーネントビデオケーブル（付属）でテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続する機器に合わせて 基本設定メニューの[コンポーネント出力]を正しく設定する（54ページ）。
- D端子コンポーネントビデオケーブル（付属）だけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグも合わせてつなぐ（32ページ）。

4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。

- ワイドで撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、基本設定メニューの[TVタイプ]を設定して再生する(54ページ)。
- DV規格で撮影するときは、あらかじめ基本設定メニューの[DV設定] → [ワイド切換]を[4:3]にして撮影する(52ページ)。

画面上に♪4ch-12bが表示される。

- 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。

リモコンについて

付属のワイヤレスリモコンが操作できない。

- [リモコン]を[入]にする(56ページ)。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがある。
- 電池を交換する。電池の＋極と－極を正しく入れる(104ページ)。
- コンバージョンレンズ(別売り)を付けていると、リモコン受光部を妨げることがあるため、コンバージョンレンズを外す。

リモコン操作中にほかのビデオが誤動作する。

- ビデオデッキのリモコンスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさぐ。

メニュー操作について

メニュー項目が灰色で表示される。

- その撮影/再生条件では選択できません。

[ホワイトバランス]ができない。

- 次の設定のとき、[ホワイトバランス]はできません。
  – NightShot
  – [カラーバー]
  – オートロックスイッチが「入」のとき(23ページ)

[シャッタースピード]を手動で調整できない。

- 次の設定のとき、[シャッタースピード]を調整できません。
  – NightShot
  – [プログラムAE]

–[カラーバー]
–[COLOR SLOW S]
–[デジタルエフェクト]の[オールドムービー]または[シネマチックエフェクト]
–[スポット測光]
–カメラ明るさがオート以外のとき
–電源スイッチが「撮る−メモリー」のとき
–オートロックスイッチが「入」のとき(23ページ)
- [プログラムAE]を設定すると、[シャッタースピード]は[オート]に戻ります。

[プログラムAE]ができない。

- 次の設定のとき、[プログラムAE]はできません。
  –NightShot
  –[カラーバー]
  –[デジタルエフェクト]の[オールドムービー]または[シネマチックエフェクト]
  –テレマクロ
  –[COLOR SLOW S]
  –オートロックスイッチが「入」のとき(23ページ)

[スポット測光]ができない。

- 次の設定のとき、[スポット測光]はできません。
  –NightShot
  –[カラーバー]
  –[デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
  –[COLOR SLOW S]
  –オートロックスイッチが「入」のとき(23ページ)
- [プログラムAE]を設定すると[スポット測光]は[オート]に戻る。

[シャープネス]が調整できない。

- 次の設定のとき、[シャープネス]は調整できません。
  –[カラーバー]
  –[デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]

[スポットフォーカス]ができない。

- 次の設定のとき、[スポットフォーカス]はできません。
  –[プログラムAE]
  –[カラーバー]
  –フォーカス/ズームスイッチが「自動」のとき

[COLOR SLOW S]が正しくできない。

- 次の設定のとき、[COLOR SLOW S]は働きません。
  –[フェーダー]
  –[デジタルエフェクト]
  –[プログラムAE]

–[シャッタースピード]
–[カラーバー]
–NightShot
–[スポット測光]
–カメラ明るさがオート以外のとき

[フェーダー]ができない。

- 次の設定のとき、[フェーダー]はできません。
  –[セルフタイマー]
  –[COLOR SLOW S]
  –[デジタルエフェクト]
  –[カラーバー]
  –[SUPER NS]

[デジタルエフェクト]ができない。

- 次の設定のとき、[デジタルエフェクト]はできません。
  –[COLOR SLOW S]
  –[フェーダー]
  –[シャッタースピード]が1/30秒以下のとき
  –[カラーバー]
  –[SUPER NS]
- 次の設定のとき、[オールドムービー]は働きません。
  –[ピクチャーエフェクト]
  –[シャッタースピード]が[マニュアル]のとき
  –[プログラムAE]
  –[DV設定]の[ワイド切換]が[4:3]のとき
- 次の設定のとき、[シネマチックエフェクト]は働きません。
  –カメラ明るさがオート以外のとき
  –[AEシフト]が0以外のとき
  –[ピクチャーエフェクト]
  –[DV設定]の[ワイド切換]が[4:3]のとき
  –[プログラムAE]
  –[スポット測光]
  –[シャッタースピード]が[マニュアル]のとき

[ピクチャーエフェクト]ができない。

- 次の設定のとき、[ピクチャーエフェクト]はできません。
  –[カラーバー]
  –[デジタルエフェクト]の[オールドムービー]または[シネマチックエフェクト]
- [ピクチャーエフェクト]の[ソフトスキントーン]は、逆光補正時には設定できません。

[ヒストグラム]が表示されない。

- 下記の場合[ヒストグラム]は表示されません。

次のページへつづく →

– 拡大フォーカス表示中
– 日付時刻表示中

- 下記の場合、⃠ が表示されて[ヒストグラム]は表示されません。
  – デジタルズーム中
  – [デジタルエフェクト]中
  – [カラーバー]

[AEシフト]が操作できない。

- 次の設定のとき、[AEシフト]はできません。
  – [カラーバー]
  – [デジタルエフェクト]の[シネマチックエフェクト]
  – カメラ明るさがオート以外のとき

[ショットトランジション]ができない。

- 次の設定のとき、[ショットトランジション]はできません。
  – NightShot
  – [カラーバー]

ダビング、編集、外部機器接続について

つないだ機器（外部入力）の映像が、液晶画面やファインダーに映らない。

- [画面表示出力]を[パネル]にする（56ページ）。
- [画面表示出力]（56ページ）が、[ビデオ出力/パネル]のとき、画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、外部入力ができなくなります。

つないだ機器（外部入力）の映像が拡大できない。

- 外部入力している画像は本機でズームできません。

つないだ機器の画面にタイムコードなどが表示される。

- AV接続ケーブルを使って接続するときは、メニューの[画面表示出力]を[パネル]にする（56ページ）。

AV接続ケーブルを使ってダビングができない。

- AV接続ケーブルでつないだ機器から外部入力することはできません。
- AV接続ケーブルが正しくつながれていない。
  AV接続ケーブルが他機の入力端子へつながれているか確認する。

ダビング編集中、i.LINKケーブル（別売り）を接続しているのに、モニターに画像が出ない。

- 接続する機器に合わせて基本設定メニューの[ビデオ HDV/DV]を正しく設定する（51ページ）。

追加録音(アフレコ)できない。

- 本機ではアフレコすることはできません。

他機でアフレコした音声が聞こえない。DV

- [▶ 音声ミックス]を[ST1](オリジナルテープ音声)側から最適な音声になるまで調節する(52ページ)。

テープから"メモリースティック　デュオ"へ静止画を取り込めない。

- 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープは、録画できなかったり、乱れた画像が記録されたりすることがあります。

本機へ外部入力できない。

- [画面表示出力](56ページ)が[ビデオ出力/パネル]のとき、外部入力できません。
- 画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、外部入力できません。

パソコンとの接続について

本機がパソコンに認識されない。USB i.LINK

- パソコンと本機からケーブルを抜き、もう1度しっかりと差し込む。
- キーボード、マウス以外で、パソコンの ψ(USB)端子につながれている他の機器を取り外す。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう1度パソコンと本機をつなぐ。

パソコンで本機が映している映像が見られない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう1度つなぐ。

テープの画像がパソコン画面で見られない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう1度つなぐ。
- USBケーブル(付属)では取り込めないため、i.LINKケーブル(別売り)でつなぐ。

"メモリースティック　デュオ"の画像がパソコンで見られない。USB

- "メモリースティック　デュオ"の向きを確かめて、本機に奥までしっかりと入れる。
- i.LINKケーブル(別売り)では取り込めないため、USBケーブル(付属)で取り込む。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると"メモリースティック　デュオ"はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、本機とパソコンをもう1度つないでください。
- 電源スイッチを「見る/編集」にして[USB機能選択]を[メモリースティック]にする。

[リムーバブルディスク]がパソコン画面に表示されない。USB

- 電源スイッチを「見る/編集」にして[USB機能選択]を[メモリースティック]にする。
- 本機に"メモリースティック　デュオ"を入れる。
- キーボード、マウス、本機以外で、パソコンの ψ(USB)端子につながれている他の機器を取り外す。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると"メモリースティック　デュオ"はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、本機とパソコンをもう1度つないでください。

パソコンに画像の転送ができない。 USB

- Windowsパソコンのときは、以下の手順で"メモリースティック　デュオ"の画像をパソコンに表示する。
  1. [マイコンピュータ]をダブルクリックする。
  2. 新しく認識された[リムーバブルディスク]のアイコンをダブルクリックする。表示されるまで時間がかかることがあります。
  3. 画像ファイルをダブルクリックする。

パソコンから転送したファイルが"メモリースティック　デュオ"に書き込まれていない。

- USBケーブル(付属)を正しい手順で取り外していない。本機とパソコンをもう1度つないで転送する(69ページ)。

ソニーパーソナルコンピューター VAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate」を使ってDV規格の画像の編集をしようとすると、本機を認識しない。 DV

- 「DVgate/DVgate Motion/DVgate Still」のバージョンが
  DVgate Ver.2.2.00/01
  DVgate Ver.2.1.xx
  DVgate Ver.2.0.xx
  DVgate Motion Ver.1.4.xx/DVgate Still Ver.1.2.xx
  に該当する場合は、本機との接続について詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

  ハンディカムホームページ「サポート＆修理」

  http://www.sony.co.jp/cam/support/

ソニーパーソナルコンピューター VAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate Plus Ver.1.3」を使ってHDV規格で撮影した画像の編集ができない。 HDV1080i

- 「DVgate Plus Ver.1.3.XX」を「DVgate Plus Ver.2.0」にアップグレードする必要があります。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

  http://vcl.vaio.sony.co.jp/

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示/警告表示

液晶画面またはファインダーに、以下のように表示されます。
お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

C:（またはE:）□□:□□（自己診断表示）

C:04:□□

- "インフォリチウム"以外のバッテリーが使われている。必ず"インフォリチウム"バッテリーを使う（100ページ）。
- ACアダプターのDCプラグを本機のDC端子にしっかりつなぐ（11ページ）。

C:21:□□

- 結露している。カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す（102ページ）。

C:22:□□

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（103ページ）。

C:31:□□ / C:32:□□

- 上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう1度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（102ページ）。
- 電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう1度操作し直す。
- カセットを交換する。リセットボタン（25ページ）を押してからもう1度操作し直す。

E:61:□□ / E:62:□□ / E:91:□□

- 修理が必要なため、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にご連絡いただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

101-1001（ファイル関連の警告）

- ファイルが壊れている。
- 扱えないファイル（98ページ）。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがある。

（結露の警告）*

- カセットを取り出し、電源を外して、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（102ページ）。

（"メモリースティック　デュオ"関連の警告）

- "メモリースティック デュオ"が入っていない（18ページ）。

（"メモリースティック　デュオ"フォーマット関連の警告）*

- "メモリースティック　デュオ"が壊れている。
- "メモリースティック　デュオ"が正しくフォーマットされていない（46、98ページ）。

（非対応"メモリースティック　デュオ"関連の警告）*

- 本機では使えない"メモリースティック　デュオ"を入れた（98ページ）。

（テープ関連の警告）

遅い点滅

- テープ残量が5分を切った。
- カセットが入っていない。*
- カセットが誤消去防止状態になっている（96ページ）。*

速い点滅
- テープが終わっている。*

⏏(テープを取り出す必要がある警告)*

遅い点滅
- カセットが誤消去防止状態になっている(96ページ)。

速い点滅
- 結露している(102ページ)。
- 自己診断表示が表示されている(91ページ)。

⊶(画像消去に関する警告)*

- 画像が消去できないようになっている(65ページ)。

⊶(“メモリースティック デュオ”誤消去防止に関する警告)*

- “メモリースティック デュオ”が誤消去防止状態になっている(98ページ)。

ϟ(フラッシュ関連の警告)

遅い点滅
- 充電中

速い点滅
- 自己診断表示が表示されている(91ページ)。*
- フラッシュに異常がある。

(手ぶれ警告)

- 光量不足のため、手ぶれが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使う。
- 手ぶれが起こりやすくなっているので、本機を両手でしっかりと固定して撮影する。ただし、手ぶれマークは消えません。

* 警告表示やお知らせメッセージが出るときに、「操作音」が鳴ります(56ページ)。

お知らせメッセージの説明

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

■ バッテリー

“インフォリチウム”バッテリーを使ってください (100ページ)

バッテリーを取りかえてください
(11、100ページ)

このバッテリーは古くなりました　取りかえてください (100ページ)

⏏電源を取り付けなおしてください
(11ページ)

■ 結露

⏏結露しています
カセットを取り出してください
(102ページ)

結露しています
約1時間放置してください (102ページ)

■ カセット/テープ

カセットを入れてください
(18ページ)

⏏カセットを入れなおしてください
- テープの損傷などがないかも確認する。

⏏カセットの誤消去防止ツマミを確認してください (96ページ)

テープが終わっています
- テープを巻き戻すか交換する。

■ “メモリースティック　デュオ”

メモリースティックを入れてください（18ページ）

メモリースティックを入れなおしてください

- “メモリースティック　デュオ”を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは“メモリースティック　デュオ”が壊れていることがあるので交換する。

読み出し専用のメモリースティックです

- 書き込みができる“メモリースティック　デュオ”を入れる。

非対応のメモリースティックです

- 本機では使えない“メモリースティック　デュオ”が入っている（98ページ）。

このメモリースティックはフォーマットが違います

- “メモリースティック　デュオ”のフォーマットを確認し、必要ならばフォーマットする（46、98ページ）。

このメモリースティックは空き容量がたりません　これ以上は記録できません

- 不要な画像を消す（65ページ）。

メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください（98ページ）

再生できません　メモリースティックを入れなおしてください（18ページ）

記録できません　メモリースティックを入れなおしてください（18ページ）

ファイルがありません

- “メモリースティック　デュオ”になにも記録されていない、または認識できる画像がない。

メモリースティックのフォルダがいっぱいです

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダ消去はできません。
- フォーマットするか（46ページ）、パソコンで不要なフォルダを消去する。

メモリースティックに静止画記録できない状態です（80ページ）

■ PictBridge対応プリンター

接続先を確認してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

PictBridge対応プリンターと接続してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

異常が確認されました　中止してください

- プリンターを確認する。

プリントできません　プリンターを確認してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

■ フラッシュ

充電中です　静止画記録はできません

- フラッシュの充電中に静止画記録しようとしている。

マイクが装着されています　ストロボ発光できません

■ その他

コピープロテクトされています　記録できません (96ページ)

非対応のフォーマットです

- 対応していないフォーマットのため、再生できません。

この"ビデオ HDV/DV"設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください。

- 再生や信号入力を停止するか、[ビデオ HDV/DV]設定を変更してください(51ページ)。

⊗ ヘッドが汚れています　クリーニングカセットを使ってください
(103ページ)

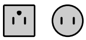
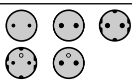
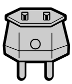
オートロック中は無効です (23ページ)

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V ～ 240V、50/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。
ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	 主に北米	 主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要	

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには、HDV1080i方式対応のテレビ（またはモニター）とコンポーネントケーブル（別売り）、AV接続ケーブル（付属）が必要です。
HDV1080i方式に対応している主な国、地域は、「テレビ方式がNTSCの国、地域」を参照してください。

DV規格で記録した再生画像をDV規格で見るには DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC、表参照）で、映像・音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

時差補正機能について

海外で使うとき、時間設定メニューの［時差補正］を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（57ページ）。

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。本機は、ミニDVカセットのみ使えます。
Mini DVマーク付きカセットを使ってください。
本機は、カセットメモリー非対応です。

HDV（HDV）規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション（HD）映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。
本機では、有効走査線数1080本のインターレース方式（1080i、画素数1440×1080ドット）を採用しています。
記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。
デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクレコーダーで採用されているMPEG2方式です。

再生について

DV規格とHDV規格の1080i方式の両方を再生できます。
本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子（i HDV/DV端子）から出力することはできません。

無記録部分を作らないために

テープを再生したときは、次の撮影の前にエンドサーチ（29ページ）を行って撮影終了位置に戻します。

著作権保護信号について

■ 再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

■ 記録するとき

著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに［コピープロテクトされています　記録できません］が表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

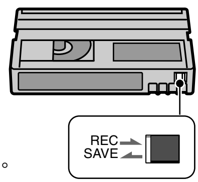
取り扱い上のご注意

■ 長い間使わないときは

本機からカセットを取り出して保管してください。

■ 間違って消さないために

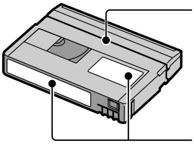
カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。



REC：録画できる。
SAVE：録画できない。
（誤消去防止状態）

■ ラベルは指定の位置に

カセットにラベルは、指定の位置に正しく貼ってください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。



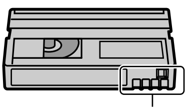
■ **カセットの使用後は**

必ずテープを巻き戻してください（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

■ **金メッキ端子のお手入れ**

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。



HDV1080i方式対応のテレビについて

HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像を見るには、ハイビジョン対応テレビ（D3端子付き）をおすすめします。

また、HDV1080i方式（i.LINK）対応のテレビと本機を接続するときは、i.LINKケーブルでつなぐことをおすすめします。（表参照）

お手持ちのテレビがHDV1080i方式（i.LINK）に対応しているかどうかにつきましては、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

HDV1080i方式（i.LINK）対応のソニー製テレビの型名
KDL-L42HX2, KDL-L32HX2, KDL-L28HX2, KDL-L40HVX, KDL-L32HVX, KDL-L26HVX, KDE-P61HX2N, KDE-P50HX2N, KDE-P42HX2N, KDE-P61HX2, KDE-P50HX2, KDE-P42HX2, KDE-P42HV2, KDE-P37HV2, KDE-P32HV2, KDE-P50HVX, KDE-P42HVX, KDE-P37HVX, KD-36HR500, KD-32HR500, KD-28HR500, KD-28HR500B, KDS-70Q006, KDX-46Q005, KDX-40Q005, KDL-L32RX2, KDL-L26RX2, KDL-L23RX2, KDE-P55HX2, KDE-P50HX1, KDE-P42HX1, KD-36HD900, KD-32HD900, KD-28HD900, KDF-60HD900, KDF-50HD900, KDF-42HD900　など

2005年6月1日現在
（発売予定のモデルも含む）

最新の情報は裏表紙の「デジタルハンディカムの最新サポート情報」のホームページをご覧ください。

その他

“メモリースティック”について

“メモリースティック”（“Memory Stick”）は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
本機は、標準の“メモリースティック”の約半分の大きさの“メモリースティック　デュオ”のみ使えます。ただし、すべての“メモリースティック　デュオ”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	**記録/再生**
メモリースティック（マジックゲート非対応）	–
メモリースティック デュオ*1（マジックゲート非対応）	○
マジックゲート メモリースティック	–
メモリースティック デュオ*1（マジックゲート対応）	○*2*3
マジックゲート メモリースティック デュオ*1	○*3
メモリースティック PRO	–
メモリースティック PRO　デュオ*1	○*2*3

*1 標準の約半分大のサイズです。

*2 高速データ転送に対応した“メモリースティック”です。転送速度はお使いになる機器により異なります。

*3 “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能を使ったデータは記録/再生できません。

- 静止画の圧縮形式：本機は、撮影した静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- 静止画の画像のデータファイル名：
  – 本機の画面表示：101-0001
  – パソコンの画面表示：DSC00001.JPG
- パソコン（Windows OS/Mac OS）でフォーマット（初期化）した“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

誤消去防止スイッチ付き“メモリースティック　デュオ”では

先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にすると、記録されているデータを誤って消去しないようにできます。
なお、本機に付属の“メモリースティック　デュオ”には誤消去防止スイッチは付いていません。

取り扱い上のご注意

以下の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。

- 画像ファイルを読み込み中や、“メモリースティック　デュオ”にデータを書き込み中（アクセスランプが点灯中および点滅中）に、“メモリースティック　デュオ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。

■取り扱いについて

以下のことを守ってください。

- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック　デュオ”本体およびメモリースティック　デュオ　アダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック　デュオ”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりし

ないでください。

- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込む恐れがあります。

■ 使用場所について

以下の場所での使用や保管は避けてください。

- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

■ メモリースティック　デュオ　アダプター（付属）の使用について

“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ アダプターに挿入すると、標準の“メモリースティック”対応機器でもご使用になれます。

- “メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック”対応機器でお使いの場合は、必ず“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。
- “メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認の上、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。また、逆向きで無理に入れると、“メモリースティック　デュオ”スロットが破損し故障の原因となります。
- “メモリースティック　デュオ”スロットには、“メモリースティック　デュオ”以外は入れないでください。故障の原因となります。
- メモリースティック　デュオ　アダプターに“メモリースティック　デュオ”が装着されない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

■ “メモリースティック　PRO　デュオ”についてのご注意

- 本機で動作確認されている“メモリースティック　PRO　デュオ”は2GBまでです。
- 本機はパラレルインターフェースを利用した高速データ通信には対応していません。

画像の互換性について

- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“Design rule for Camera File systems”に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック　デュオ”が本機で使えないときは、46ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）をしてください。フォーマットすると“メモリースティック　デュオ”に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  – パソコンで加工した画像データ
  – 他機で撮影した画像データ

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

本機は"インフォリチウム"バッテリー(Mシリーズ)のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。"インフォリチウム"バッテリーシリーズには InfoLITHIUM M SERIES マークがついています。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

"インフォリチウム"バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
別売りのACアダプター/チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10～30℃の範囲で、充電ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取り外してください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、以下のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  - 高容量バッテリー「NP-QM71D/QM91D(別売り)」を使う。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
  高容量バッテリー「NP-QM71D/QM91D(別売り)」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影や再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5～10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告する マークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り外して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、基本設定メニューで[自動電源オフ]を[なし]に設定し、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください(56ページ)。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK（アイリンク）について

本機のHDV/DV端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については62ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パーソナルコンピューターVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMV、HDVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製i.LINKケーブルを使ってください。
4ピン↔4ピン（HDV/DVダビング時）

取り扱い上のご注意とお手入れ

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温や低温になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面やファインダー、レンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  液晶画面やファインダー内部を傷めます。

■ 長時間使用しないときは

- 3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。
- バッテリーは使い切ってから、保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、[%⏏ 結露しています カセットを取り出してください]または[% 結露しています 約1時間放置してください]と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

■ 結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。
警告表示が出ている間は、開く/カセット取出し⌋つまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても%や⏏が点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。
カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

■ 結露が起こりやすいのは

以下のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

■ 結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドについて

HDV規格で記録したテープを再生すると、まれに再生中の画像と音声が一瞬（約0.5秒）停止することがあります。
テープやビデオヘッドに付着物があるなどしてHDV規格の信号をテープに正しく記録、再生できなかった時に起こる現象で、カセットによってはごくまれに、新品またはご利用期間が短いにもかかわらず発生することがあります。
再生時に起きたときは、テープを少し送って巻き戻すと問題なく見ることができる場合がありますが、記録時に起きたときは、その部分を修復することはできません。
このような事態を予防するためにもソニー製ミニDVカセットのご使用をおすすめします。

- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM-12CLDを10秒間再生してビデオヘッドをきれいにしてください。
  - 再生画面の一部が動かない。
  - 再生画像が出ない。
  - 音声が途切れる。
  - 録画中に[⊗ヘッドが汚れていますクリーニングカセットを使ってください]が表示される。
  - HDV規格のときに以下の現象が起こる。

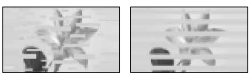


再生画像が一時停止する



再生画像が消える（青1色の画面）

  - DV規格のときに以下の現象が起こる。



四角いノイズが出る



再生画像が消える（青1色の画面）

- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

■ お手入れ

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などで拭いてください。
別売りの液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

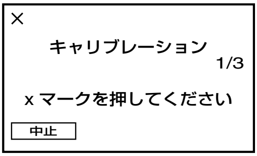
■ 画面調節（キャリブレーション）について

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンの位置にずれが生じることがあります。
このような症状になったときは、以下の操作を行ってください。本機と壁のコンセントを、付属のACアダプターでつないで電源を取ってください。

① 電源スイッチを「見る/編集」にする。

② 本機からACアダプター以外のケーブル類を外し、カセットと"メモリースティック　デュオ"を取り出す。

③ P.メニュー →[メニュー]→ 基本設定→[キャリブレーション]→ OK をタッチ。



④ “メモリースティック デュオ”などの角を使って、画面に表示される×マークを押す。
解除するには[中止]をタッチ。
×マークの位置は変わります。

正しい位置を押さなかった場合、やり直しになります。

- 液晶画面を外側に向けたときは、キャリブレーションできません。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下は避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類
  - 上記が手に付いたまま本機を扱う。
  - ゴムやビニール製品との長時間接触

レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

内蔵の充電式電池について

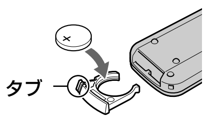
本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機がACアダプターで電源につながっているか、バッテリーが入っている限り常に充電されています。ACアダプターで電源につながない、またはバッテリーを入れないままで**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。
ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

■ 充電方法

本機を付属のACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切(充電)」にして24時間以上放置する。

リモコンの電池を交換するには

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引出す。
② ＋面を上にして新しい電池を入れる。
③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。



- リモコンには、ボタン型リチウム電池(CR2025)が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

主な仕様

システム

録画方式（HDV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式（DV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式*[1]	Exif Ver.2.2
録音方式（HDV）	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット48kHz（ステレオ） 転送レート 384kbps
録音方式（DV）	回転ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット、48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式、1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DVマークのついたミニDVカセット
テープ速度（HDV）	約18.81mm/秒
テープ速度（DV）	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間（HDV）	60分（DVM60使用時）
録画/再生時間（DV）	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時： 約2分40秒（DVM60使用時） ACアダプター使用時： 約1分45秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	5.9mm（1/3型）CMOSセンサー 総画素数：約297万画素 動画時有効画素数（4：3モード）：約149 万画素 動画時有効画素数（16：9モード）：約198 万画素 静止画時有効画素数（4：3モード）：約276万画素 静止画時有効画素数（16：9モード）：約207万画素
ズームレンズ	カール ツァイス　バリオゾナーT* 10倍（光学）、120倍（デジタル） f=5.1 ～ 51mm 35mmカメラ換算では 「撮る－テープ」時*[2]： 41 ～ 480mm（16：9モード） （4：3モードでは50 ～ 590mm） 「撮る－メモリー」時： 37 ～ 370mm（4：3モード） （16：9モードでは40 ～ 400 mm） F1.8 ～ 2.1 フィルター径37mm
色温度切り換え	［オート］、［ワンプッシュ］、 ［屋内］（3 200K）、 ［屋外］（5 800K）
最低被写体照度	15 lx（ルクス）（F1.8） 0 lx（ルクス）（NightShot時）

*[1] （社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

*[2] 広角画素読み出しによる実動作値

出力端子

A/V OUT端子	10ピン特殊コネクター 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡 Y出力　1Vp-p、75 Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p、75 Ω不平衡 音声：327mV（47 k Ω負荷時）、出力インピーダンス2.2 k Ω以下
コンポーネントビデオ端子	D1/D3映像：コンポーネントビデオ端子 Y：1Vp-p、75 Ω不平衡 PB/PR、CB/CR：± 350mVp-p
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（ø 3.5）

その他

次のページへつづく ➡

入/出力端子

マイク入力端子	ステレオミニジャック（ø 3.5）
LANC端子	ステレオミニミニジャック（ø 2.5）
USB端子	mini-B
HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394　4ピンコネクター　S100）

液晶画面

画面サイズ	6.9cm（2.7型、アスペクト比16：9）
総ドット数	123 200ドット 横560×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	ファインダー使用時、明るさ標準： HDV記録時 5.8W DV記録時 5.2W 液晶画面使用時、明るさ標準： HDV記録時 5.9W DV記録時 5.3W
動作温度	0℃～ +40℃
保存温度	－20℃～ +60℃
外形寸法	71×94×188mm （最大突起部を除く）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約680g（本体のみ）
撮影時総質量	約780g（バッテリーNP-FM50、テープ（DVM60）、レンズキャップ含む。）
付属品	10ページをご覧ください。

ACアダプター　AC-L15A/L15B

電源	AC100～240V、50/60Hz
消費電力	18W
定格出力	DC8.4V *
動作温度	0℃～ +40℃
保存温度	－20℃～ +60℃
外形寸法	約56×31×100mm （最大突起部をのぞく）（幅×高さ×奥行き）
質量	約190g（本体のみ）

* その他の仕様についてはACアダプターのラベルをご覧ください。

リチャージャブルバッテリーパック NP-FM50

最大電圧	DC8.4V
公称電圧	DC7.2V
容量	8.5Wh（1 180mAh）
最大外形寸法	約38.2×20.5×55.6mm （幅×高さ×奥行き）
質量	約76g
使用温度	0℃～ +40℃
使用電池	Li-ion

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルHDビデオカメラレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

■ 調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

■ それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

■ 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■ 部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

■ 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

警告 火災 感電

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はテクニカルインフォメーションセンターにご依頼ください。

分解禁止

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターや充電器などもコンセントから抜いて、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

禁止

指定以外の電池、ACアダプター、充電器を使わない

火災やけがの原因となることがあります。

禁止

機器本体や付属品は乳幼児の手の届く場所に置かない

電池、"メモリースティック　デュオ"など付属品を飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

フラッシュ、ビデオライトご使用上の注意

- 点灯したまま放置しない。
- 使用中に紙や布などの燃えやすいものを近づけない。
- ビデオライトの点灯中及び消灯直後のランプに触らない。
- 指定以外のランプを使用しない。火災ややけどの原因になります。
- 可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュまたは、ビデオライトを使用しない。

禁止

フラッシュ、ビデオライトなどの撮影補助光を至近距離で人に向けない

禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

⚠注意

火災　感電

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

禁止

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

禁止

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

指示

電源コードやパソコン接続ケーブル、AV接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、充電器、充電中のバッテリーや製品に長時間ふれない

禁止

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

禁止

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

プラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

禁止

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

次のページへつづく➡

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

禁止

電池や付属品を取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック　デュオ"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

指示

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間続けて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与える事があります。呼びかけられたら返事が出来るくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

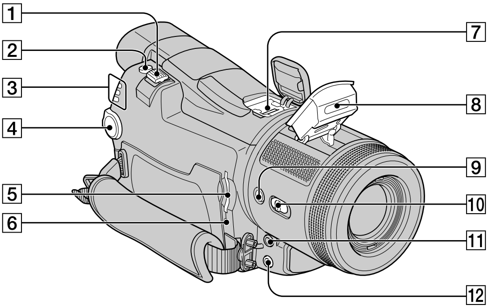
漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがやけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	• バッテリーパックは指定された充電器以外で充電しない。 • 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 • 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 • 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 • 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。	禁止
⚠警告	• 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。 • ボタン電池は充電しないでください。	禁止
⚠注意	• 電池を使い切ったときや、長時間使用しない場合は機器から取り出しておく。	指示

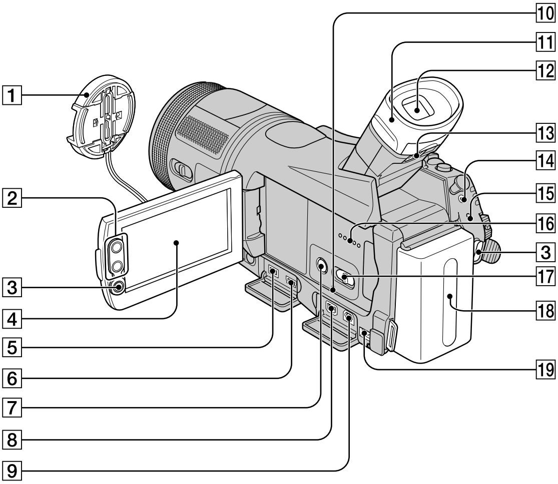
お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。 Li-ion リチウムイオン電池 **充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については** 有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

各部のなまえ

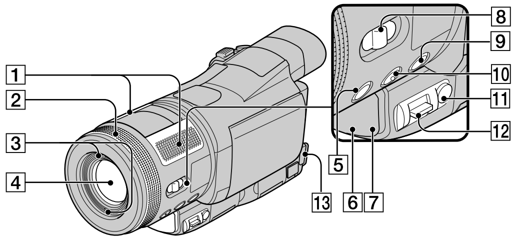
（　）内は参照ページです。

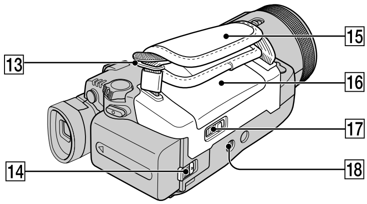


1 ズームレバー（22）
2 フォトボタン（20）
3 撮る-テープ、撮る-メモリー、見る/編集ランプ（14）
4 電源スイッチ（14）
5 "メモリースティック　デュオ"スロット（18）
6 アクセスランプ（18、98）
7 アクティブインターフェースシュー Active Interface Shoe（68）
8 フラッシュ発光部
9 ϟ（フラッシュ）ボタン（24）
10 NIGHTSHOTスイッチ（22）
11 MIC（マイク）端子（68）
12 ☊（ヘッドホン）端子（68）



1 レンズキャップ（14、20）
2 ズームボタン（22）
3 録画スタート/ストップボタン（20）
4 液晶画面/タッチパネル（3、16）
5 i HDV/DV端子（i.LINK）（68）
6 ψ（USB）端子（68）
7 画面表示/バッテリーインフォボタン（25）
8 COMPONENT OUT端子（68）
9 A/V OUT端子（68）
10 RESET（リセット）ボタン（25）
11 アイカップ
12 ファインダー（15）
13 視度調整つまみ（15）
14 LANC端子（68）
15 充電ランプ（11）
16 スピーカー（25）
17 オートロックスイッチ（23）
18 バッテリーパック（11）
19 DC IN端子（68）

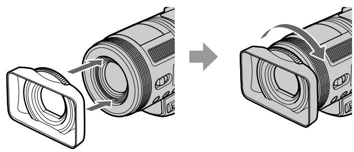




1 内蔵ステレオマイク（25）
2 ズームリング/フォーカスリング（22、23）
3 レンズフード取り付け部
4 レンズ（カールツァイスレンズ搭載）（4）
5 テレマクロボタン（23）
6 録画ランプ（25）
7 リモコン受光部（25）
8 フォーカス/ズームスイッチ（22、23）
9 逆光補正ボタン（23）
10 拡大フォーカスボタン（23）
11 明るさボタン（22）
12 明るさ/音量レバー（22）
13 ショルダーストラップ取り付け部
14 BATT（バッテリー取り外し）つまみ（12）
15 グリップベルト（14）
16 カセットカバー（18）
17 開く/カセット取り出し⏏つまみ（18）
18 三脚用ネジ穴（24）

レンズフードを取り付ける

本体のレンズフード取り付け部に合わせてレンズフードを差し込み、フード固定ネジを矢印の方向に回す。



取り外すには

フード固定ネジを上記の矢印と反対方向に回してゆるめる。

- レンズフードが装着されているときに別売りのフィルターを取り付けることはできません。

索引

次のページへつづく ➡

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

数字

商標について

- “Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK™、“メモリースティック　デュオ”、MEMORY STICK DUO、“メモリースティック PRO　デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“マジックゲート”、MAGICGATE、“MagicGate Memory Stick”、“マジックゲート　メモリースティック”、“MagicGate Memory Stick Duo”、“マジックゲート　メモリースティック　デュオ”はソニー株式会社の商標または商標登録です。
- InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。
- i.LINK、はソニー株式会社の商標です。
- Mini DV Digital Video Cassette は商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Mediaは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- HDVおよびHDVロゴは、ソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。